

# 人 口 動 態 総 覧

佐賀県

	実 数			率				全国 順位	20年平均 発生間隔
	平成20年	平成19年	増 減	平成20年	平成19年	対前年比 19=100	全国20年		
出 生	7 819	7 703	116	9.2	9.0	102.0	8.7	5	時 分 秒 1 7 24
男	3 975	3 944	31	9.9	9.8	101.3	9.1	5	2 12 35
女	3 844	3 759	85	8.5	8.3	102.7	8.2	7	2 17 6
死 亡	8 983	8 787	196	10.5	10.3	102.7	9.1	19	0 58 40
男	4 592	4 484	108	11.5	11.1	102.9	9.9	16	1 54 46
女	4 391	4 303	88	9.7	9.5	102.5	8.3	19	2 0 2
乳児死亡	22	17	5	2.8	2.2	127.5	2.6	9	399 16 22
新生児死亡	7	6	1	0.9	0.8	114.9	1.2	34	1254 51 26
自然増加	1164	1084	80	1.4	1.3	107.9	0.1	24	7 32 47
死 産	199	223	24	24.8	28.1	88.2	25.2	25	44 8 27
自然死産	81	103	22	10.1	13.0	77.7	11.3	39	108 26 40
人工死産	118	120	2	14.7	15.1	97.2	13.9	17	74 26 26
周産期死亡	28	27	1	3.6	3.5	102.2	4.3	41	313 42 51
妊娠満22週以後 の死産	24	23	1	3.1	3.0	102.8	3.4	38	366 0 0
早期新生児死亡	4	4	0	0.5	0.5	98.5	0.9	44	2196 0 0
婚 姻	4 210	4 213	3	4.9	4.9	100.4	5.8	33	2 5 11
離 婚	1 468	1 542	74	1.72	1.80	95.6	1.99	38	5 59 1
合計特殊出生率				1.55	1.51	...	1.37	5	
生活 習慣 病 死亡									
悪性新生物	2 724	2 690	34	319.7	314.3	101.7	272.3	10	3 13 29
心疾患	1 346	1 316	30	158.0	153.7	102.8	144.4	25	6 31 34
脳血管疾患	1 000	998	2	117.4	116.6	100.7	100.9	21	8 47 2

注：1) 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡率・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対、生活習慣病死亡率は人口10万対である。

2) 合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

3) 全国順位は高率順位である。

# 第1章 出生

## 1 出生の動き

平成20年の本県の出生数は7,819人で1時間7分24秒に1人の割合で生まれたことになり、前年より116人増加し、出生率（人口千対）は9.2で前年の9.0を上回った。

本県の出生率は戦後急激に上昇したが、昭和24年のベビーブームをピークにその後次第に低下した。37年以降は41年の「ひのえうま」を除いてほぼ安定していたが、50年以降徐々に低下し、平成15年からは戦後初めて自然増がマイナスに転じた。

全国と比較すると、図1のように昭和37年頃から全国より低率で推移していたが、54年からは再び高率となり平成20年は全国5位であった。

図1 出生数及び出生率の年次推移

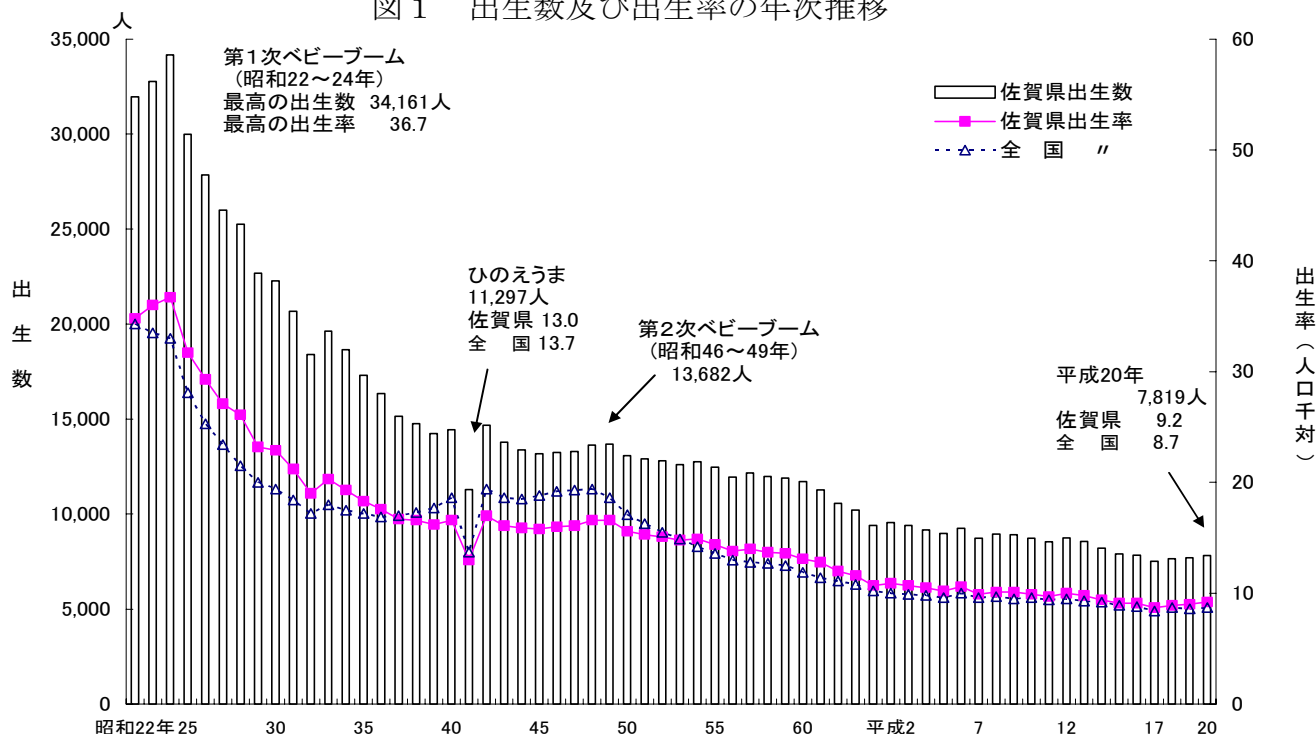


表1 出生率・合計特殊出生率・総再生産率の年次推移

年次	出生率		合計特殊出生率		総再生産率	
	佐賀県	全国	佐賀県	全国	佐賀県	全国
昭和 22年	<b>34.8</b>	34.3	...	4.54	...	2.21
25	<b>31.7</b>	28.1	...	3.65	...	1.77
30	<b>22.9</b>	19.4	...	2.37	<b>1.45</b>	1.15
35	<b>18.3</b>	17.2	<b>2.35</b>	2.00	<b>1.14</b>	0.97
40	<b>16.6</b>	18.6	<b>2.28</b>	2.14	<b>1.11</b>	1.04
45	<b>15.8</b>	18.8	<b>2.13</b>	2.13	<b>1.01</b>	1.03
50	<b>15.6</b>	17.1	<b>2.03</b>	1.91	<b>0.97</b>	0.93
55	<b>14.4</b>	13.6	<b>1.93</b>	1.75	<b>0.93</b>	0.85
60	<b>13.1</b>	11.9	<b>1.95</b>	1.76	<b>0.94</b>	0.86
平成 2	<b>10.9</b>	10.0	<b>1.75</b>	1.54	<b>0.84</b>	0.75
7	<b>9.9</b>	9.6	<b>1.64</b>	1.42	<b>0.80</b>	0.69
12	<b>10.0</b>	9.5	<b>1.67</b>	1.36	<b>0.80</b>	0.66
17	<b>8.7</b>	8.4	<b>1.48</b>	1.26	<b>0.73</b>	0.62
18	<b>8.9</b>	8.7	<b>1.50</b>	1.32	<b>0.72</b>	0.64
19	<b>9.0</b>	8.6	<b>1.51</b>	1.34	<b>0.76</b>	0.65
20	<b>9.2</b>	8.7	<b>1.55</b>	1.37	<b>0.79</b>	0.67

## 2 合計特殊出生率

これからの人口の動向をみるものとして重要な合計特殊出生率（P 7 注:2）の平成 20 年は、1.55 で前年の 1.51 を上回った。昭和 50 年までは 2.0 台で推移していたが、以後ほぼ低下し続け、平成 17 年の 1.48 は全国 7 位とはいえ過去最低を記録した。

合計特殊出生率を母の年齢(5 歳階級)別にみると、20～24 歳、30～34 歳、45～49 歳の各階級で減少し、15～19 歳、25～29 歳、35～39 歳、40～44 歳の各階級では上昇した。

図 2 合計特殊出生率の年次推移（佐賀県）

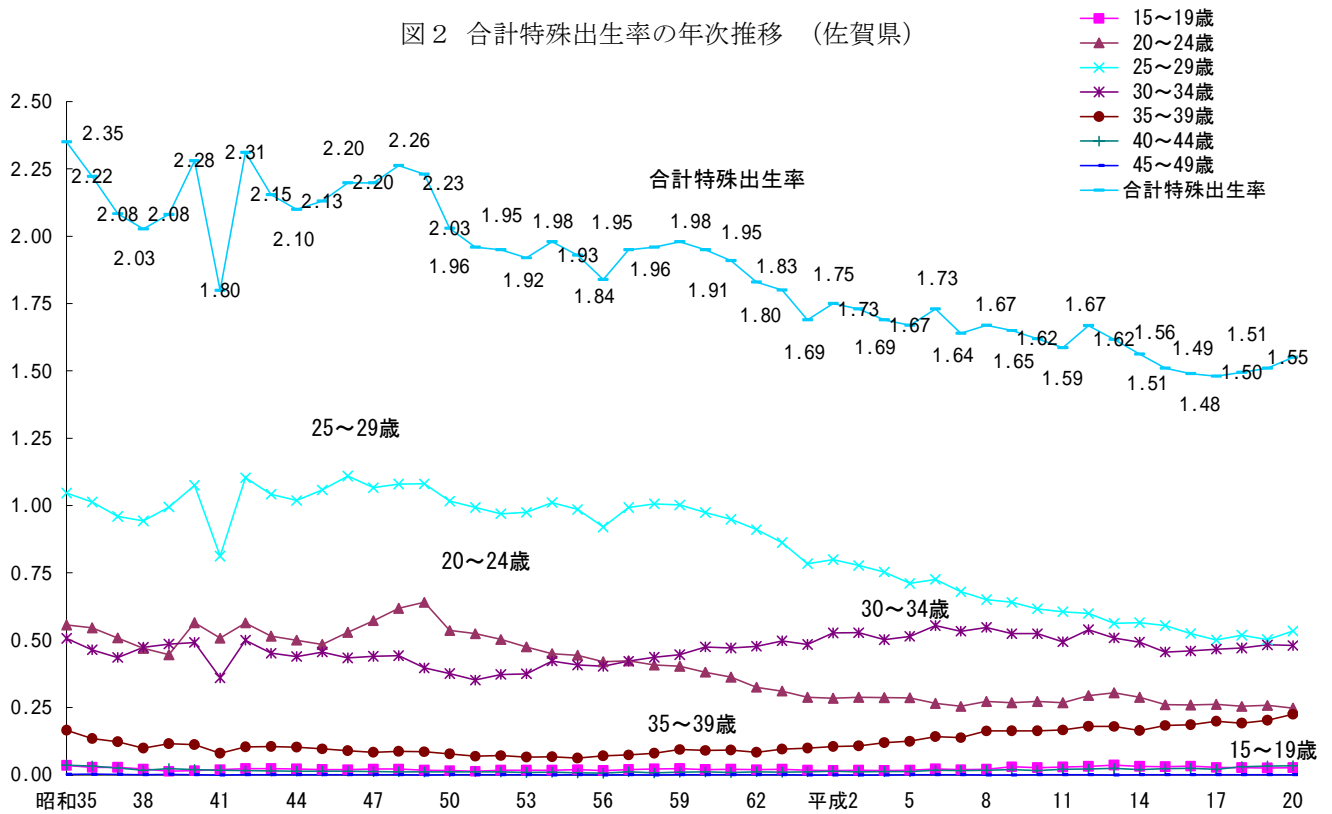


表 2 年齢階級別にみた合計特殊出生率の年次推移

佐賀県

母の年齢	昭35年	40年	45年	50年	55年	60年	平2年	7年	12年	17年	18年	19年	20年
合計	2.35	2.28	2.13	2.03	1.93	1.95	1.75	1.64	1.67	1.48	1.50	1.51	1.55
15～19歳	0.0352	0.0156	0.0202	0.0160	0.0190	0.0204	0.0163	0.0192	0.0317	0.0273	0.0265	0.0257	0.0270
20～24歳	0.5565	0.5652	0.4848	0.5363	0.4443	0.3813	0.2850	0.2544	0.2949	0.2619	0.2544	0.2581	0.2483
25～29歳	1.0465	1.0753	1.0584	1.0162	0.9856	0.9743	0.7990	0.6801	0.5994	0.5016	0.5184	0.5016	0.5348
30～34歳	0.5067	0.4923	0.4565	0.3763	0.4079	0.4750	0.5272	0.5336	0.5396	0.4668	0.4709	0.4828	0.4807
35～39歳	0.1653	0.1126	0.0962	0.0779	0.0625	0.0910	0.1061	0.1385	0.1805	0.1987	0.1927	0.2035	0.2250
40～44歳	0.0365	0.0197	0.0143	0.0116	0.0074	0.0108	0.0143	0.0167	0.0214	0.0212	0.0312	0.0336	0.0344
45～49歳	0.0015	0.0008	0.0009	0.0006	0.0010	0.0007	0.0004	0.0007	0.0005	0.0005	0.0011	0.0007	0.0006

表3 母の年齢階級別にみた出生数の年次推移

佐賀県

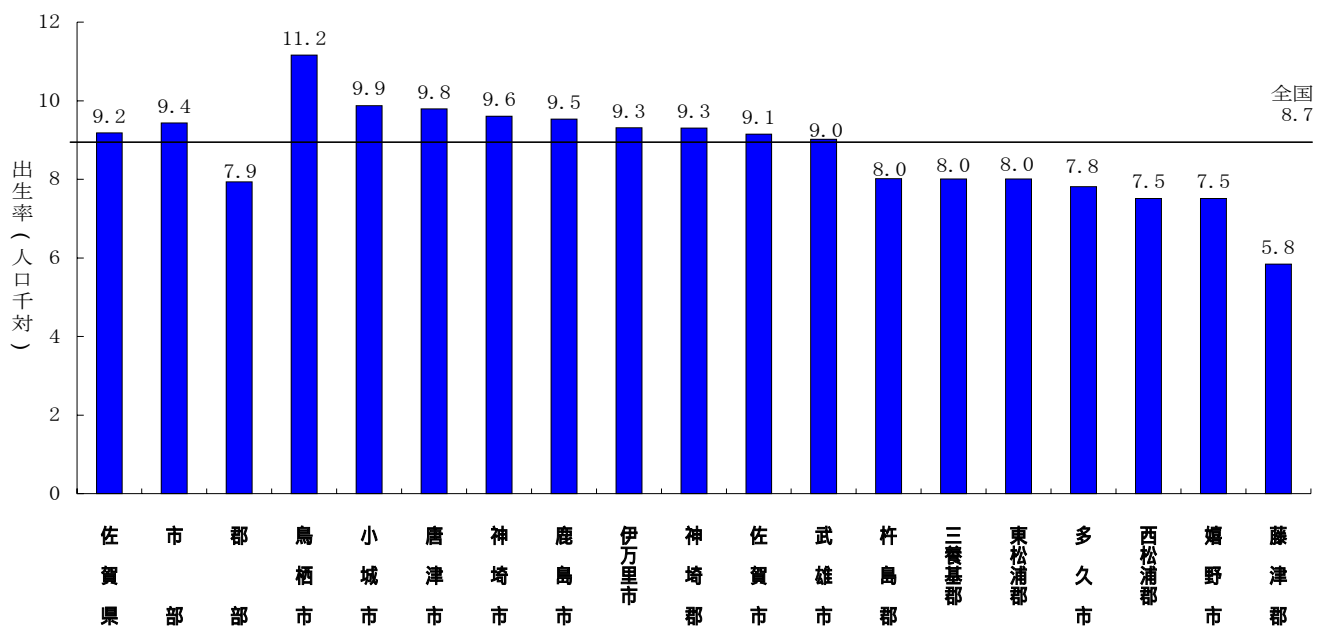
母の年齢	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	16年	17年	18年	19年	20年
合計	17 294	14 443	13 187	13 085	12 466	11 705	9 555	8 729	8 745	7 844	7 508	7 647	7 703	7 819
～19歳	296	147	170	109	119	123	105	119	180	167	133	127	119	119
20～24	4 341	3 730	3 692	3 647	2 630	2 087	1 470	1 422	1 529	1 350	1 226	1 221	1239	1192
25～29	7 744	6 452	6 007	6 707	6 578	5 691	4 214	3 490	3 248	2 733	2 540	2 592	2508	2567
30～34	3 648	3 249	2 615	2 107	2 738	3 123	2 972	2 787	2 718	2 485	2 494	2 543	2607	2596
35～39	1 058	743	609	436	353	616	696	795	944	969	1 001	1 002	1058	1170
40～44	197	118	89	74	42	61	96	111	123	133	111	156	168	172
45～49	8	4	5	4	6	4	2	5	3	7	3	6	4	3
50～	2													
不詳				1										

### 3 地域別にみた出生

地域別の出生状況は図3のとおりで、出生率は概ね市部が郡部より高くなっている。

平成20年の地域別の出生率をみると、鳥栖市が平成13年から引き続き高く11.2となっており、鹿島市が前年の8.0から9.5へと上昇している。

図3 地域別出生率 平成20年 (佐賀県)



#### 4 出生順位

出生順位別出生割合の年次推移を図4でみると、昭和35年には第3子以上が全体の35.3%を占め、続いて第1子35.1%、第2子29.6%であったが、その後第3子以上の割合が急激に減少し、50年には第1子41.2%、第2子37.6%、第3子以上21.2%となった。

昭和55年から平成2年までは第1子はほぼ横ばい、第2子は減少、第3子以上は増加傾向にあったが、その後は第1子は増加傾向、第2子は横ばい、第3子以上は減少傾向となり、平成20年は第1子41.4%、第2子36.9%、第3子以上21.7%となった。

図4 出生順位別出生割合の年次推移（佐賀県）

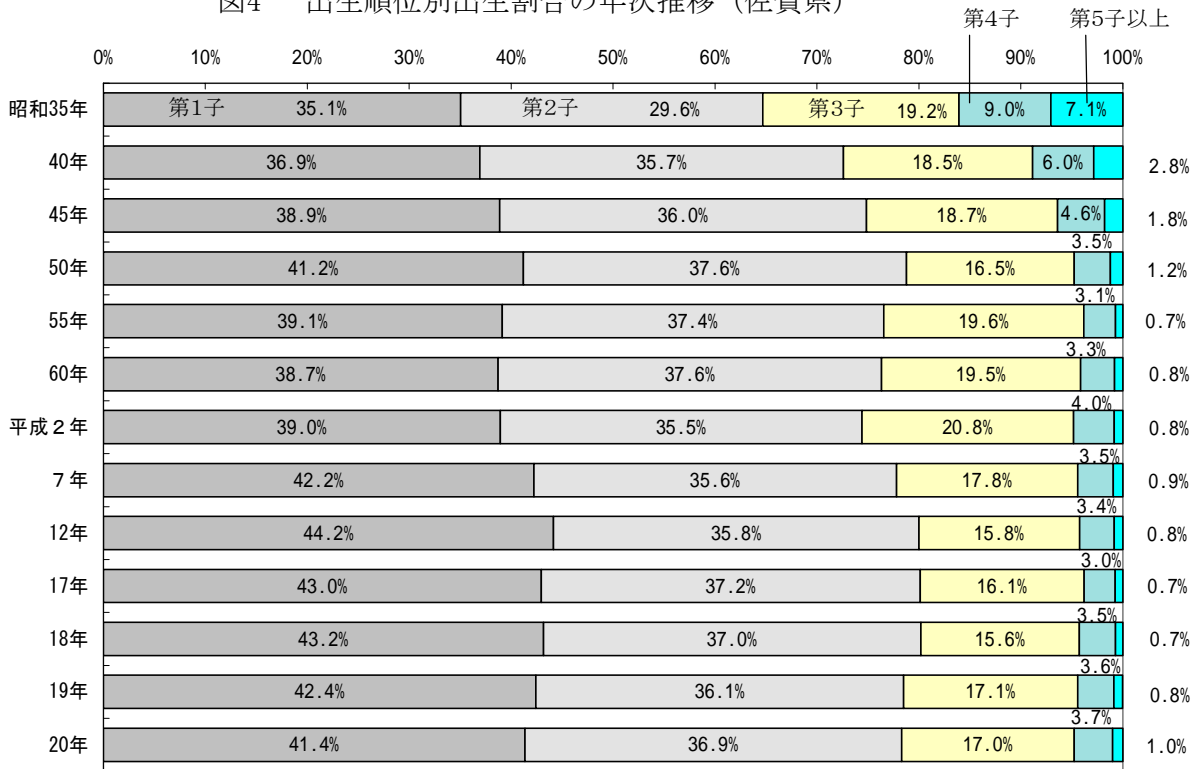


表4 出生順位別にみた出生数の年次推移

佐賀県

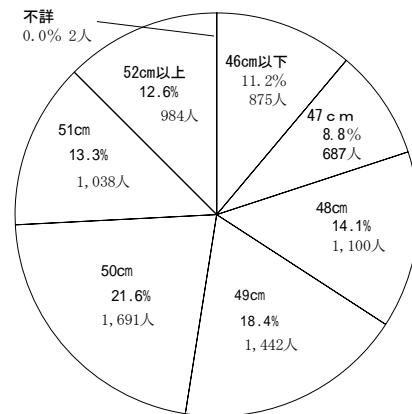
出生順位	昭35年	40年	45年	50年	55年	60年	平2年	7年	12年	18年	19年	20年
総数	17 294	14 443	13 187	13 085	12 466	11 705	9 555	8 729	8 745	7 647	7 703	7 819
第1子	6 062	5 333	5 129	5 391	4 878	4 531	3 722	3 686	3 862	3 302	3 268	3 235
第2子	5 126	5 153	4 745	4 918	4 665	4 406	3 389	3 107	3 134	2 830	2 780	2 887
第3子	3 325	2 679	2 469	2 153	2 448	2 282	1 983	1 552	1 380	1 190	1 314	1 327
第4子	1 559	868	613	464	388	392	382	304	296	271	275	293
第5子以上	1 222	410	231	159	87	94	79	80	73	54	66	77

## 5 出生時の子の身長

出生時の平均身長は前年 49.0 cmから 49.1 cm となっており、性別では男 49.3 cm、女 48.8 cm である。

また、身長別出生割合は図 5 のとおりで、50 cmが 21.6%で最も多く、続いて 49 cmが 18.1%、48 cmが 14.1%となっている。

図 5 身長別出生割合 平成20年（佐賀県）



## 6 出生時の子の体重

平成 20 年の出生時の平均体重は 3.01 kgで、男 3.05 kg、女 2.97 kgとなっている。

また、2,500 g 未満の低体重児の出生割合の年次推移を表 5 でみると、昭和 45 年の 6.9%から減少し、60 年から平成 9 年まで増加、10 年には 8.0%と減少したものの、11 年以降は再び増加し、20 年は前年 9.6%から 9.7%とわずかに増加している。性別では男 8.7%、女 10.7%と、女が低体重児の出生割合が高いが、この傾向は各年を通じてみられる。

平成 20 年における体重別出生割合は図 6 のとおりで、3.0 kg以上 3.5 kg未満が全体の 41.1%を占め、この前後の 2.5 kg以上 3.0 kg未満、3.5 kg以上 4.0 kg未満を合わせると 89.4%になる。

図 6 体重別出生割合 平成20年（佐賀県）

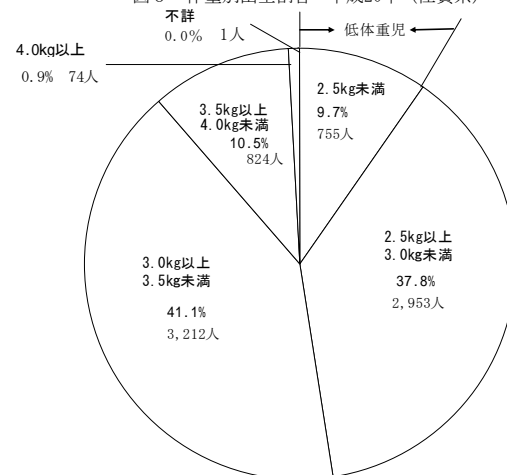


表5 平均体重・低体重児の数と割合の年次推移

佐賀県

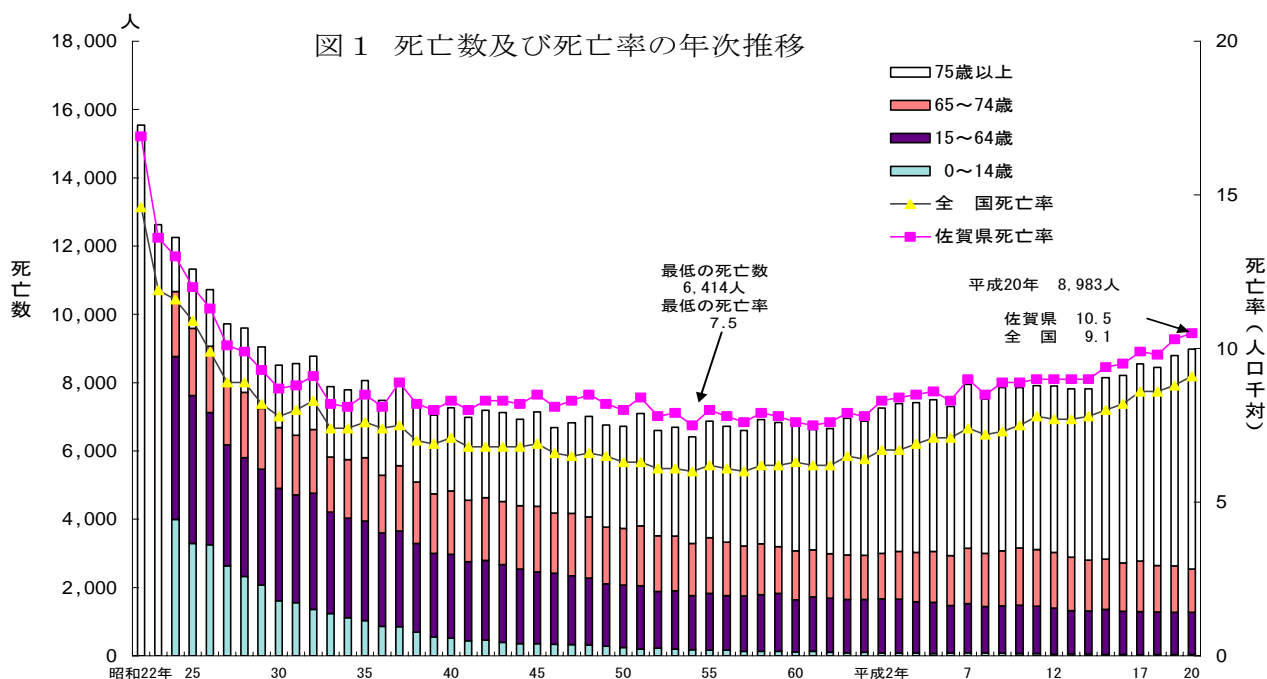
年次	平均体重		総 数			男			女		
	男	女	全出生数 a	2,500g 未満 出生数 b	割合 b/a×100 %	全出生数	2,500g 未満 出生数	割合 %	全出生数	2,500g 未満 出生数	割合 %
	kg	kg									
昭和 45 年	3.19	3.10	13 187	908	6.9	6 920	454	6.6	6 267	454	7.2
50	3.21	3.15	13 085	739	5.6	6 805	384	5.6	6 280	355	5.7
55	3.21	3.14	12 466	680	5.5	6 455	323	5.0	6 011	357	5.9
60	3.18	3.11	11 705	715	6.1	6 032	349	5.8	5 673	366	6.5
平成 2	3.15	3.07	9 555	642	6.7	4 970	305	6.1	4 585	337	7.4
7	3.12	3.03	8 729	664	7.6	4 473	327	7.3	4 256	337	7.9
8	3.10	3.03	8 941	704	7.9	4 610	342	7.4	4 331	362	8.4
9	3.10	3.02	8 909	757	8.5	4 496	344	7.7	4 413	413	9.4
10	3.10	3.02	8 741	698	8.0	4 468	322	7.2	4 273	376	8.8
11	3.09	3.01	8 551	733	8.6	4 422	340	7.7	4 129	393	9.5
12	3.10	3.01	8 745	750	8.6	4 578	348	7.6	4 167	402	9.6
13	3.08	3.00	8 561	761	8.9	4 329	343	7.9	4 232	418	9.9
14	3.08	2.99	8 202	744	9.1	4 240	353	8.3	3 962	391	9.9
15	3.07	3.01	7 898	699	8.9	3 972	341	8.6	3 926	358	9.1
16	3.08	2.98	7 844	691	8.8	4 063	304	7.5	3 781	387	10.2
17	3.05	2.97	7 508	718	9.6	3 783	311	8.2	3 725	407	10.9
18	3.07	2.98	7 647	735	9.6	4 023	340	8.5	3 624	395	10.9
19	3.07	2.98	7 703	741	9.6	3 944	334	8.5	3 759	407	10.8
20	3.05	2.97	7 819	755	9.7	3 975	345	8.7	3 844	410	10.7

## 第2章 死 亡

### 1 死亡の動き

平成20年の本県死亡者数は8,983人で、58分40秒に1人の割合で亡くなったことになり、前年より196人増加し、人口千対死亡率は10.5で前年の10.3をわずかに上回った。

本県の死亡率の年次推移は図1のとおりで、戦後は医薬の進歩、公衆衛生の発展によって、およそ10年間に死亡率が半減する低下傾向をみせた。しかし、昭和30年代に入ってから、年によっては前年をわずかに上回ることもあるが、おおむね横ばい状態となっていた。近年は、人口の高齢化の進展に伴い、死亡率がやや上昇してきている。



本県の死亡率を全国と比べると、各年次とも平均をかなり上回っているが、その主な原因は高齢人口の割合が高いことによる。

一般に、異なる地域の比較にあたっては、一定の基準人口（昭和60年モデル人口）にあてはめて調整した年齢調整死亡率でみるべきであるが、表1のとおり、基準人口に全国の人口を使用した本県の年齢調整死亡率は、いずれの年も粗死亡率を下回り、全国の死亡率に近い率になっている。



表 1 粗死亡率・年齢調整死亡率の比較

年次	佐 賀 県		全 国 死亡率
	粗死亡率	年齢調整 死亡率	
昭和35年	8.5	7.7	7.6
40	8.3	7.3	7.1
45	8.5	7.1	6.9
50	8.0	6.4	6.3
55	8.0	6.3	6.2
60	7.6	6.2	6.3
平成 2	8.3	6.8	6.7
7	9.0	7.5	7.4
12	9.0	7.7	7.7
17	9.9	8.5	8.6
18	9.8	8.5	8.6
19	10.3	8.9	8.8
20	10.5	9.1	9.1

注) 基準人口は、各年日本人人口を使用した。

## 2 季節別にみた死亡

図2により死亡率の季節変動をみると、平成20年は1～2月の寒い時期が高く、7月は高くなつたものの5～9月が低くなっている。

死因と季節の関係についてみると表2のとおりで、病死の場合は悪性新生物を除いて全体的に冬期が高くなっている。

図2 死亡率の季節変動 佐賀県

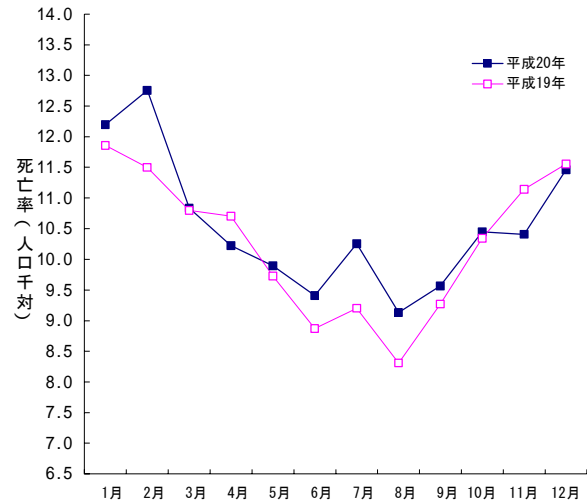


表2 主な死因別・月別死亡率（人口10万対）

平成20年 佐賀県

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	1054.3	1219.4	1275.4	1083.6	1022.4	989.4	940.8	1025.4	913.2	956.5	1044.8	1041.0	1146.0
悪性新生物	319.7	343.7	337.7	281.3	297.8	286.8	312.2	315.9	320.1	342.2	360.3	319.3	320.1
心疾患	158.0	227.3	217.8	174.6	148.9	141.3	121.7	159.4	105.3	117.4	133.0	160.4	189.8
脳血管疾患	117.4	124.7	149.6	130.3	121.7	97.0	101.7	115.0	83.1	107.4	102.5	120.3	117.8
肺炎	117.3	131.6	157.0	123.3	131.7	113.6	103.1	116.4	91.5	107.4	99.8	116.0	156.6
不慮の事故	38.7	52.7	51.8	36.0	32.9	36.0	18.6	23.6	47.1	27.2	40.2	43.0	55.4
老衰	26.9	29.1	40.0	31.9	22.9	23.6	17.2	29.1	24.9	20.0	23.6	30.1	11.1
腎不全	21.8	22.2	32.6	18.0	32.9	22.2	18.6	20.8	22.2	20.0	16.6	10.0	30.5
自殺	20.4	22.2	20.7	36.0	25.8	19.4	22.9	20.8	9.7	14.3	29.1	12.9	26.3
性閉塞性肺疾	18.9	24.9	16.3	20.8	20.0	15.2	12.9	16.6	18.0	25.8	27.7	11.5	16.6
糖尿病	11.3	15.2	16.3	13.9	10.0	8.3	17.2	6.9	8.3	10.0	11.1	10.0	15.2
肝疾患	10.3	8.3	10.4	15.2	5.7	11.1	2.9	13.9	12.4	4.3	8.3	15.8	8.3
高血圧性疾患	7.9	13.9	10.4	11.1	5.7	8.3	8.6	4.2	5.5	5.7	6.9	10.0	4.2

注：各月の率は年率に換算したものである。 月別死亡率 =  $\frac{\text{月間の死因別死亡数} \times \frac{\text{年間の日数}}{\text{月間の日数}}}{\text{人口}} \times 100,000$

### 3 地域別にみた死亡

死亡率を市郡別にみたものが表3、図3である。

一般的に、異なる地域の比較にあたっては、一定の基準人口（昭和60年モデル人口）にあてはめて調整した年齢調整死亡率でみるが、これによると粗死亡率ほどには各地域間の高低は目立たない。

年齢調整死亡率を高率順に並べてみると、市部では武雄市が10.2で最高、嬉野市が7.7で最低となっている。郡部では杵島郡が9.3と最高で、藤津郡が6.5で最低となっている。

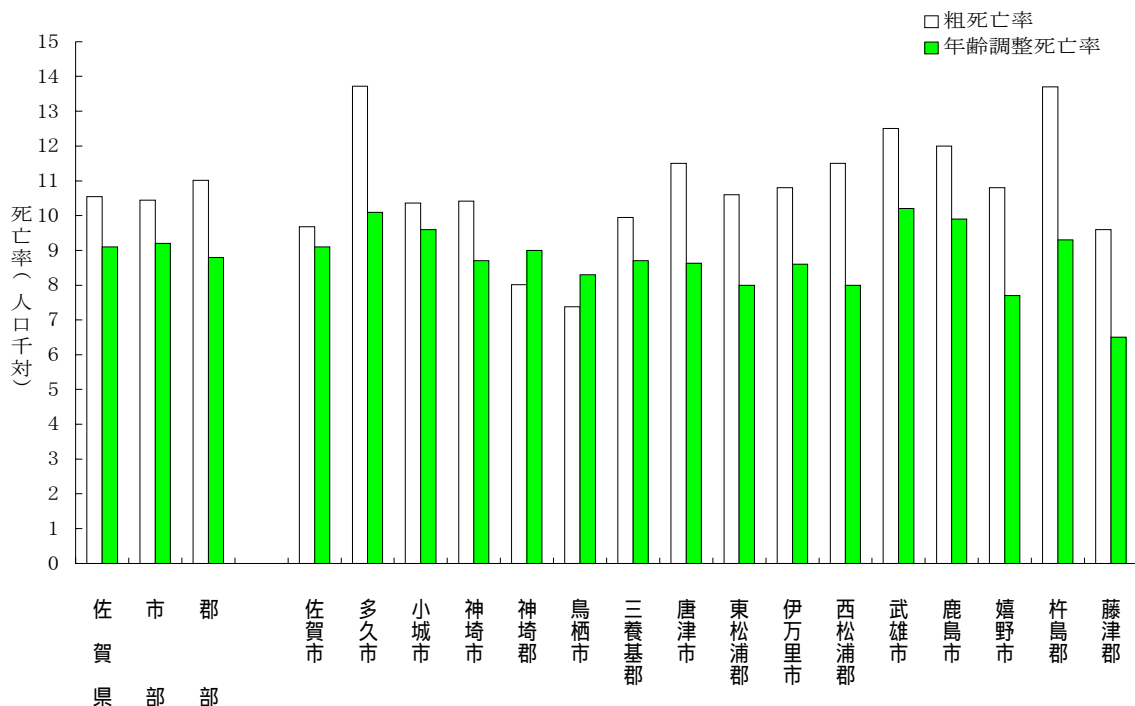
保健所別にみると唐津保健所が9.5で最高、鳥栖保健所が8.5で最低となっている。

表3 粗死亡率・年齢調整死亡率－保健所・市郡別（人口千対）

保健所別		粗死亡率	年齢調整死亡率	平成20年		
市	郡			粗死亡率	年齢調整死亡率	
佐賀県		10.5	9.1	唐津保健所	11.4	9.5
市部		10.4	9.2	唐津市	11.5	9.5
郡部		11.0	8.8	東松浦郡	10.6	9.1
佐賀中部保健所		10.0	9.2	伊万里保健所	11.0	8.9
佐賀市		9.7	9.1	伊万里市	10.8	8.9
多久市		13.7	10.1	西松浦郡	11.5	9.0
小城市		10.4	9.6	杵藤保健所	12.2	9.2
神埼市		10.4	8.7	武雄市	12.5	10.2
神埼郡		8.0	9.0	鹿島市	12.0	9.9
鳥栖保健所		8.5	8.5	嬉野市	10.8	7.7
鳥栖市		7.4	8.3	杵島郡	13.7	9.3
三養基郡		10.0	8.7	藤津郡	9.6	6.5

注：基準人口は全国日本人人口を使用した。

図3 市郡別粗死亡率・年齢調整死亡率 平成20年



#### 4 年齢階級別にみた死亡

死亡率を年齢階級別にみると図4、表4のとおりである。

出生後まもなくは環境に対する適応性が備わっていないため死亡率はやや高く、10～14歳で最も低くなる。その後59歳ごろまでは緩やかに上昇するが、以後は急速に上昇する。

年齢と死因については表5のとおりで、1歳未満では出生時の先天奇形と周産期に発生した病態が68.2%を占めている。

15～34歳までは不慮の事故や自殺が上位に多く、疾病以外の死因が67.0%と大きな割合を占めることは注目すべきことである。

35歳代から80歳台まで圧倒的に1位である悪性新生物は、若年層からも重視される死因となっている。

90歳以上にあつては、心疾患が1位である。

図4 年齢階級別死亡率の年次比較 佐賀県

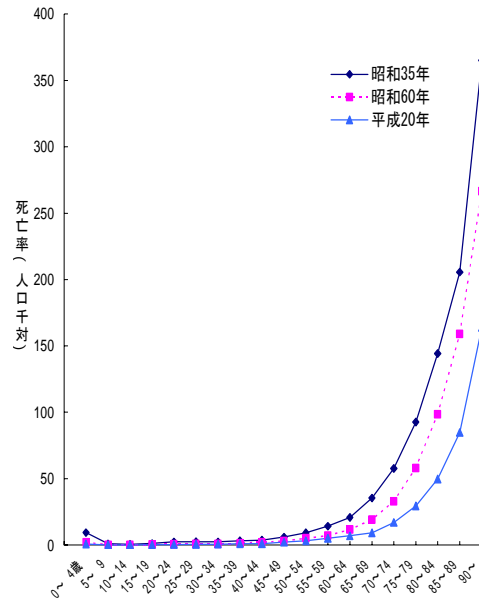


表4 年齢階級別死亡率（人口千対）の年次推移

年齢階級	佐賀県													全国 20年
	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	18年	19年	20年	
総数	8.5	8.3	8.5	8.0	8.0	7.8	8.3	9.0	9.0	9.9	9.8	10.3	10.5	9.1
0～4歳	9.4	6.0	4.5	2.9	2.1	1.7	1.2	1.3	0.9	0.4	0.7	0.7	0.7	0.7
5～9	1.0	0.6	0.6	0.5	0.3	0.2	0.2	0.3	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1
10～14	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1
15～19	1.2	1.0	0.8	0.4	0.4	0.4	0.6	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.3	0.3
20～24	2.4	1.6	1.1	0.9	0.7	0.6	0.7	0.6	0.5	0.4	0.7	0.5	0.5	0.4
25～29	2.6	2.0	1.3	1.0	0.8	0.5	0.6	0.4	0.5	0.6	0.5	0.6	0.5	0.5
30～34	2.4	1.6	1.4	1.4	1.0	1.0	0.6	0.8	0.8	0.6	0.6	0.7	0.7	0.6
35～39	3.2	2.4	2.0	1.7	1.5	1.0	1.3	0.9	1.1	0.9	1.1	0.9	1.0	0.8
40～44	3.8	3.5	2.8	2.9	2.1	1.8	1.6	1.5	1.5	1.4	1.3	1.4	1.1	1.2
45～49	6.1	5.6	4.8	3.8	3.1	3.0	2.4	2.1	2.3	2.2	2.3	2.3	2.2	1.9
50～54	9.2	7.6	6.3	5.4	5.1	4.5	4.1	4.0	4.2	3.4	3.5	3.3	3.2	3.0
55～59	14.2	12.6	10.0	8.5	7.1	6.0	6.3	5.9	5.4	5.3	4.8	5.0	5.1	4.7
60～64	20.8	18.8	16.9	13.2	11.6	9.7	10.0	9.4	7.8	7.3	7.2	7.0	7.0	6.8
65～69	35.4	32.7	28.5	21.1	19.2	15.2	13.2	14.5	13.0	11.5	10.4	10.5	9.3	10.1
70～74	57.6	49.0	46.4	36.9	33.0	27.9	23.1	21.5	19.6	18.5	17.2	17.3	17.0	16.7
75～79	92.7	80.5	79.4	66.3	58.1	46.8	43.1	38.5	31.4	30.8	28.5	29.4	29.5	28.7
80～84	144.3	142.8	126.7	110.2	98.5	86.9	72.2	70.1	53.9	47.8	45.4	47.3	49.8	49.2
85～89	205.6	206.6	205.2	169.4	159.1	137.6	125.5	117.4	99.5	88.1	86.2	83.1	84.8	84.6
90～	365.0	263.6	276.5	277.4	266.6	250.5	235.8	205.1	173.6	167.6	164.6	169.3	163.9	179.8
(再掲)														
85～	232.0	217.2	220.7	193.0	182.8	164.3	155.3	143.6	124.4	118.7	116.8	116.7	143.9	118.9

表5 年齢階級別死因順位

平成20年

年齢階級	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %
<b>総数</b>	<b>悪性新生物</b>	<b>2724</b>	<b>30.3</b>	<b>心疾患</b>	<b>1346</b>	<b>15.0</b>	<b>脳血管疾患</b>	<b>1000</b>	<b>11.1</b>	<b>肺炎</b>	<b>999</b>	<b>11.1</b>	<b>不慮の事故</b>	<b>330</b>	<b>3.7</b>
0歳	先天奇形及び染色体異常	10	45.5	周産期に発生した病態	5	22.7	乳幼児突然死症候群	2	9.1	心疾患	1	4.5	肺炎	1	4.5
										不慮の事故	1	4.5			
1～4	悪性新生物	1	14.3												
	先天奇形及び染色体異常	1	14.3												
	不慮の事故	1	14.3												
	他殺	1	14.3												
5～9	悪性新生物	1	25.0												
	心疾患	1	25.0												
	不慮の事故	1	25.0												
	他殺	1	25.0												
10～14	心疾患	2	28.6	肺炎	1	14.3									
				不慮の事故	1	14.3									
15～19	不慮の事故	5	35.7	心疾患	3	21.4	先天奇形及び染色体異常	1	7.1						
				自殺	3	21.4									
20～24	自殺	10	52.6	悪性新生物	3	15.8	敗血症	2	10.5						
				不慮の事故	3	15.8									
25～29	自殺	8	33.3	不慮の事故	5	20.8	悪性新生物	4	16.7	心疾患	1	4.2			
30～34	自殺	10	29.4	不慮の事故	6	17.6	悪性新生物	5	14.7	心疾患	4	11.8	脳血管疾患	2	5.9
35～39	悪性新生物	17	32.7	自殺	14	26.9	心疾患	6	11.5	脳血管疾患	2	3.8			
										肝疾患	2	3.8			
										不慮の事故	2	3.8			
40～44	悪性新生物	19	35.2	不慮の事故	7	13.0				心疾患	5	9.3			
				自殺	7	13.0				脳血管疾患	5	9.3			
45～49	悪性新生物	47	41.2	自殺	15	13.2	心疾患	9	7.9						
							脳血管疾患	9	7.9						
							不慮の事故	9	7.9						
50～54	悪性新生物	75	40.5	自殺	20	10.8	心疾患	19	10.3	脳血管疾患	17	9.2	不慮の事故	12	6.5
55～59	悪性新生物	168	47.3	心疾患	44	12.4	自殺	31	8.7	脳血管疾患	30	8.5	不慮の事故	17	4.8
60～64	悪性新生物	187	49.0	心疾患	45	11.8	脳血管疾患	27	7.1	不慮の事故	17	4.5	自殺	13	3.4
65～69	悪性新生物	225	48.7	心疾患	49	10.6	脳血管疾患	30	6.5	不慮の事故	24	5.2	肺炎	20	4.3
70～74	悪性新生物	362	44.7	心疾患	100	12.3	脳血管疾患	54	6.7	肺炎	52	6.4	不慮の事故	37	4.6
75～79	悪性新生物	488	37.6	心疾患	169	13.0	脳血管疾患	141	10.9	肺炎	118	9.1	不慮の事故	52	4.0
80～84	悪性新生物	507	30.2	心疾患	241	14.4	脳血管疾患	219	13.1	肺炎	21	1.3	不慮の事故	54	3.2
85～89	悪性新生物	362	23.0	心疾患	291	18.5	肺炎	222	14.1	脳血管疾患	211	13.4	老衰	41	2.6
90～	心疾患	356	18.8	肺炎	343	18.2	悪性新生物	253	13.4				老衰	171	9.1
							脳血管疾患	253	13.4						

注 (1) 0歳については乳児の死因分類、それ以外については選択死因分類を使用した。

死因順位は死亡数の多いものからとし、死亡数が同数の場合は同一順位に死因名を列記した。

(2) 割合については、各年齢階級別の死亡総数に対する割合である。

5 死因別にみた死亡

死因順位は、明治から昭和の戦前にかけて上位を占めていた結核、肺炎及び気管支炎、胃腸炎などの感染性疾患が、戦後は次第に後退し、代わって生活習慣病と不慮の事故が台頭してきた。

昭和30年からは1位脳血管疾患、2位悪性新生物の順であったが、53年に1位悪性新生物、2位脳血管疾患と逆転した。昭和59年から平成6年までの11年間は1位悪性新生物、2位心疾患、3位脳血管疾患、4位肺炎及び気管支炎、5位不慮の事故及び有害作用の順であったが、平成7年に2位と3位が入れ替わって11年まで続いた。しかし、平成12年には再び入れ替わって元と同じ順位となった。平成20年は、前年から4位と3位が入れ替わり、再び3位脳血管疾患、4位肺炎となった。

表6 死因順位の年次推移（人口10万対）

佐賀県

年次	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	死因	率	死因	率	死因	率	死因	率	死因	率
昭和 25	結核	140.2	脳血管疾患	107.9	悪性新生物	91.8	老 衰	77.2	心 疾 患	69.7
30	脳血管疾患	134.5	悪性新生物	98.5	老 衰	74.5	心 疾 患	63.6	結 核	61.0
35	脳血管疾患	166.6	悪性新生物	125.5	心 疾 患	71.3	老 衰	67.8	肺炎及び 気管支炎	50.3
40	脳血管疾患	194.1	悪性新生物	140.3	心 疾 患	81.3	老 衰	59.6	不慮の事故 及び有害作用	52.0
45	脳血管疾患	199.4	悪性新生物	149.9	心 疾 患	110.3	不慮の事故 及び有害作用	53.3	老 衰	48.5
50	脳血管疾患	183.7	悪性新生物	163.5	心 疾 患	120.8	不慮の事故 及び有害作用	40.2	肺炎及び 気管支炎	36.7
55	悪性新生物	178.9	脳血管疾患	162.0	心 疾 患	141.0	肺炎及び 気管支炎	41.0	老 衰	34.1
60	悪性新生物	192.2	心 疾 患	138.2	脳血管疾患	130.8	肺炎及び 気管支炎	57.1	不慮の事故 及び有害作用	30.1
平成 2	悪性新生物	227.3	心 疾 患	157.8	脳血管疾患	118.2	肺炎及び 気管支炎	73.7	不慮の事故 及び有害作用	38.1
7	悪性新生物	262.9	脳血管疾患	137.6	心 疾 患	127.5	肺 炎	98.4	不慮の事故	39.3
12	悪性新生物	282.9	心 疾 患	125.8	脳血管疾患	119.7	肺 炎	94.4	不慮の事故	39.7
16	悪性新生物	303.7	心 疾 患	134.3	脳血管疾患	115.1	肺 炎	97.5	不慮の事故	36.0
17	悪性新生物	313.9	心 疾 患	145.1	脳血管疾患	115.8	肺 炎	102.4	不慮の事故	40.3
18	悪性新生物	306.1	心 疾 患	141.4	脳血管疾患	119.3	肺 炎	107.0	不慮の事故	38.3
19	悪性新生物	314.3	心 疾 患	153.7	肺 炎	117.5	脳血管疾患	116.6	不慮の事故	38.0
20	悪性新生物	319.7	心 疾 患	158.0	脳血管疾患	117.4	肺 炎	117.3	不慮の事故	38.7

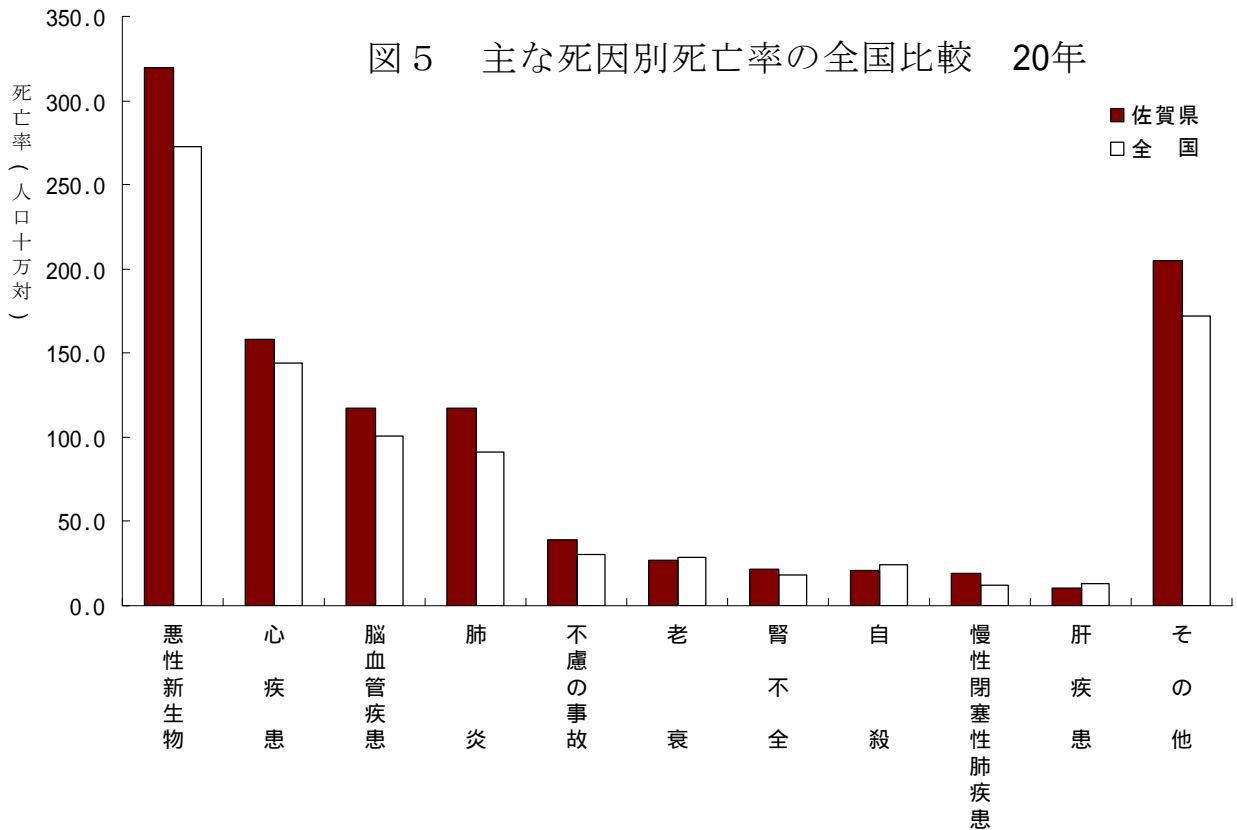
平成 20 年の主な死因について、前年と比較してみると表 7 のとおりである。

主な死因では、悪性新生物、心疾患、老衰が増加している。また、順位は 1 位～2 位と 5 位は前年同様であるが、前年 4 位の脳血管疾患が 3 位となり、前年 6 位の自殺が 7 位となった。

表 7 主な死因順位別死亡数・死亡率 (人口10万対)

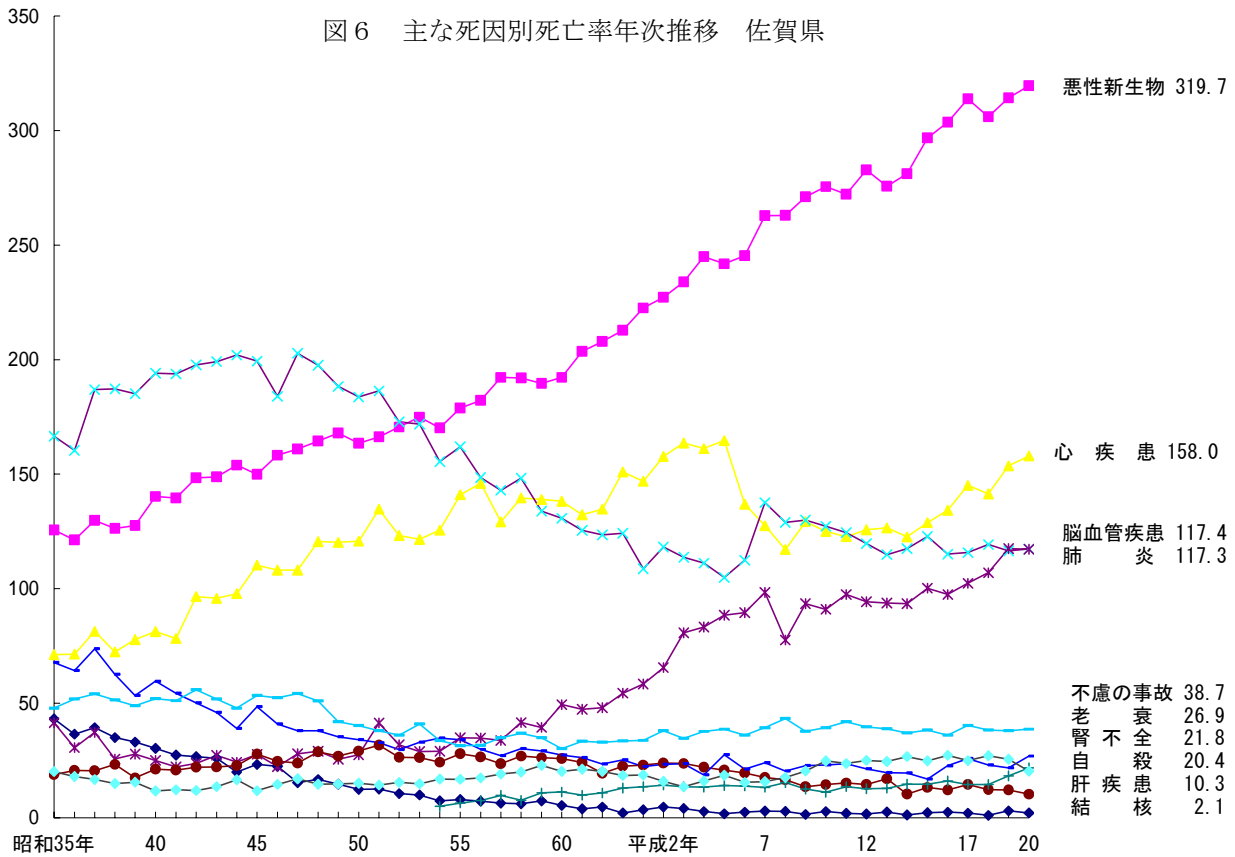
佐賀県

死 因 順 位 (20年)	死 因	死亡数		死亡率		死亡割合		全国 (20年)		全国順位	
		20年	19年	20年	19年	20年	19年	死亡率	死亡割合	20年	19年
	全 死 因	8 983	8 787	1054.3	1026.5	100.0	100.0	907.1	100.0	19	17
1	悪性新生物	2 724	2 690	319.7	314.3	30.3	30.6	272.3	30.0	10	10
2	心 疾 患	1 346	1 316	158.0	153.7	15.0	15.0	144.4	15.9	25	23
3	脳血管疾患	1 000	998	117.4	116.6	11.1	11.4	100.9	11.1	21	24
4	肺 炎	999	1 006	117.3	117.5	11.1	11.4	91.6	10.1	15	8
5	不慮の事故	330	325	38.7	38.0	3.7	3.7	30.3	3.3	16	9
6	老 衰	229	187	26.9	21.8	2.5	2.1	28.6	3.1	34	38
7	腎 不 全	186	157	21.8	18.3	2.1	1.8	17.9	2.0	18	29
8	自 殺	174	218	20.4	25.5	1.9	2.5	24.0	2.6	44	22
9	慢性閉塞性肺疾患	161	136	18.9	15.9	1.8	1.5	12.3	1.4	5	7
10	肝 疾 患	88	104	10.3	12.1	1.0	1.2	12.9	1.4	40	24
	そ の 他	1 746	1 650	204.9	192.8	19.4	18.8	171.9	19.0	...	...



## 6 主な死因

主な死因の年次推移をあらわしたものが図6である。



注：1) 平成6・7年の心疾患の減少は、新しい死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。

2) 平成7年の脳血管疾患の増加は、平成7年1月からのICD-10の適用による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。



## A 悪性新生物

悪性新生物は、昭和53年来の1位は変わらない。図6にみられるように、死亡率がわずかに低下する年も散見されるものの、他の疾病と違って確実に上昇している。

年齢別では、35歳から89歳までの各年齢層において死亡順位が1位にランクされており(表5参照)、総死亡に占める割合も、昭和53年には22.2%だったが平成20年は34.8%と大きくなっている。

平成20年の死亡率は319.7で、全国の272.3との差は大きい。全国順位も10位と長年にわたり上位に位置している。

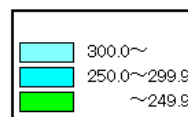
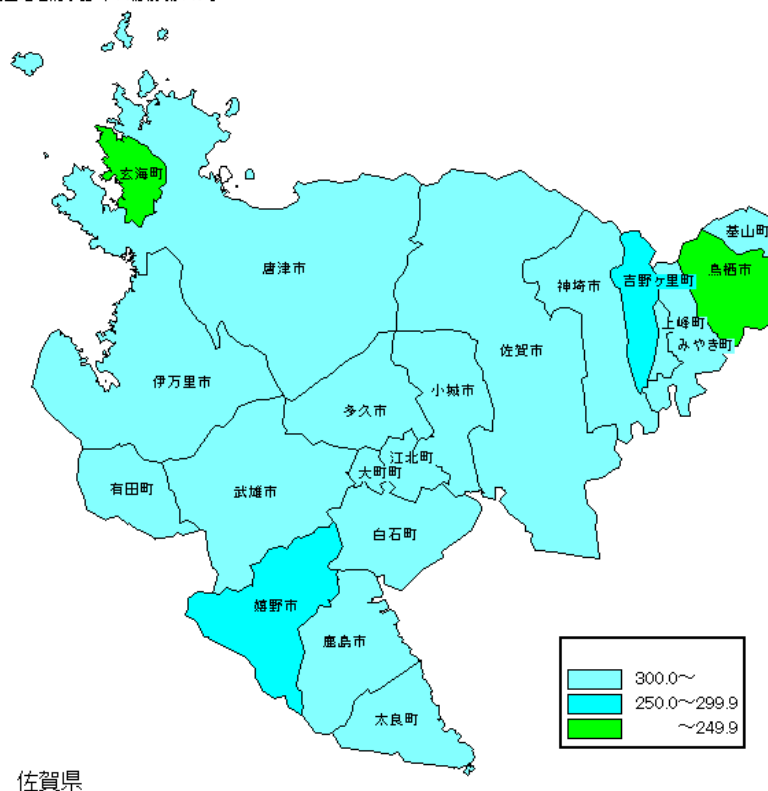
市郡別死亡率を表8、図7で見ると、最高は多久市の461.6で、杵島郡390.4、鹿島市376.8と続いている。最低は鳥栖市の234.6で、次いで東松浦郡の246.3となっている。

表8 市郡別悪性新生物死亡率

平成20年 佐賀県

市郡別	死亡率 (人口10万対)
佐賀県	319.7
多久市	461.6
杵島郡	390.4
鹿島市	376.8
藤津郡	356.8
神埼市	346.2
西松浦郡	337.5
武雄市	335.7
小城市	319.6
三養基郡	319.4
伊万里市	317.5
唐津市	317.1
佐賀市	313.6
嬉野市	270.9
神埼郡	265.0
東松浦郡	246.3
鳥栖市	234.6

国土地理院承認 平14総複 第149号



悪性新生物の部位別死亡は表9、図8のとおりである。

男女別にみると、男の1位は気管、気管支及び肺、2位は肝及び肝内胆管、3位は胃であり、女の1位は肝及び肝内胆管、2位は胃、3位気管、気管支及び肺で、昨年と2位と3位が入れ替わっている。

全国と比べると高率の部位が多いが、中でも肝及び管内胆管は男1.6倍、女1.9倍と高い死亡率で、昭和55年以降は全国1位か2位で推移している。

表9 悪性新生物の部位別死亡数・率・割合

平成20年

	死亡数	死亡率(人口10万対)									死亡割合 (%)				全国 順位 (総数)
		佐賀県			全 国			佐賀県		全 国					
		総数	男	女	総数	男	女	男	女	男	女				
総数	2724	1565	1159	319.7	390.3	257.0	272.3	336.0	211.7	100.0	100.0	100.0	100.0	10	
食道	73	57	16	8.6	14.2	3.5	9.3	16.3	2.7	3.6	1.4	4.8	1.3	29	
胃	381	230	151	44.7	57.4	33.5	39.8	53.7	26.6	14.7	13.0	16.0	12.6	15	
結腸	235	115	120	27.6	28.7	26.6	22.9	23.6	22.2	7.3	10.4	7.0	10.5	8	
直腸S状結腸移行部及び直腸	82	47	35	9.6	11.7	7.8	11.3	14.5	8.2	3.0	3.0	4.3	3.9	43	
肝及び肝内胆管	391	238	153	45.9	59.4	33.9	26.7	36.4	17.6	15.2	13.2	10.8	8.3	1	
胆のう及びその他の胆道	142	61	81	16.7	15.2	18.0	13.7	13.5	14.0	3.9	7.0	4.0	6.6	21	
膵	177	94	83	20.8	23.4	18.4	20.6	22.3	19.0	6.0	7.2	6.6	9.0	30	
気管、気管支及び肺	475	350	125	55.8	87.3	27.7	53.1	79.1	28.3	22.4	10.8	23.6	13.4	26	
乳房	89	0	89	10.4	0.0	19.7	9.4	0.2	18.3	0.0	7.7	0.0	8.6	7	
子宮	54	・	54	12.0	・	12.0	8.8	・	8.8	・	4.7	・	4.2	3	
前立腺	86	86	・	21.4	21.4	・	16.3	16.3	・	5.5	・	4.8	・	8	
白血病	74	45	29	8.7	11.2	6.4	6.1	7.4	4.8	2.9	2.5	2.2	2.3	7	
その他	465	242	223	54.6	60.3	49.4	46.8	52.7	41.2	15.5	19.2	15.7	19.5		
(再掲)大腸	317	162	155	37.2	40.4	34.4	34.2	38.1	30.4	10.4	13.4	11.3	14.3	16	

- 注：1) 「大腸」は「結腸」と「直腸S状結腸移行部及び直腸」を示す。
- 2) 「乳房」及び「子宮」の全国順位は、女の順位である。
- 3) 「前立腺」の全国順位は、男の順位である。

図8 悪性新生物の部位別死亡割合 (平成20年) 佐賀県

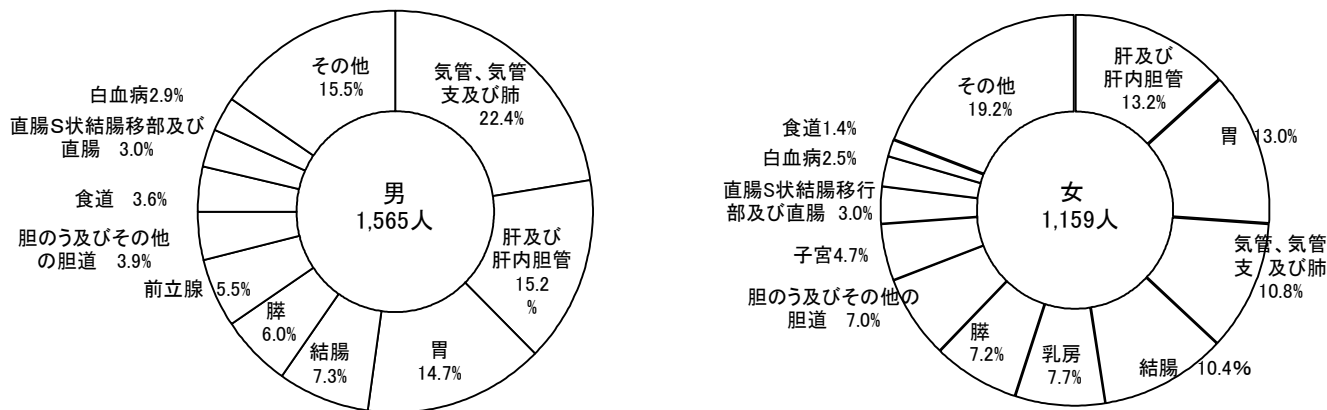


表10 部位別にみた悪性新生物死亡数・死亡率の年次推移

佐賀県

年次	総数	食道	胃	結腸	直腸S状結腸	移行部及び直腸	肝及び肝内胆管	胆のう及び	その他の胆道	膵	気管・気管支	及び肺	乳房	子宮	前立腺	白血病	その他	(再掲)大腸
昭和 35年	1 183	33	524	27	43	152	...	23	58	15	85	...	31	192	70			
40	1 223	19	521	30	36	165	...	38	66	24	75	...	27	222	66			
45	1 255	42	526	36	45	134	...	53	103	25	59	...	45	187	81			
50	1 367	33	529	45	63	147	...	49	135	14	68	...	30	254	108			
55	1 546	34	474	73	49	190	...	76	217	30	63	...	31	309	122			
60	1 712	34	425	102	73	273	...	85	258	30	35	...	48	349	175			
平成 2	1 992	35	391	147	77	325	...	127	315	50	46	...	66	413	224			
7	2 320	63	404	197	82	374	135	135	373	43	51	51	73	390	279			
12	2 473	64	385	175	87	387	143	152	423	64	42	75	78	473	262			
15	2 580	56	409	217	87	391	140	165	442	70	48	88	68	487	304			
16	2 700	64	364	214	101	431	162	178	461	71	46	70	87	451	315			
17	2 709	73	400	199	88	405	147	203	467	78	31	87	92	439	287			
18	2 629	53	372	241	90	409	124	178	481	82	34	64	73	428	331			
19	2 690	79	347	221	86	395	133	160	508	87	38	87	79	470	307			
20	2 724	73	381	235	82	391	142	177	475	89	54	86	74	465	317			
死 亡 率 (人口10万対)																		
昭和 35年	125.5	3.5	55.6	2.9	4.6	16.1	...	2.4	6.2	1.6	17.2	...	3.3	20.4	7.4			
40	140.3	2.2	59.8	3.4	4.1	18.9	...	4.4	7.6	2.8	16.3	...	3.1	25.5	7.6			
45	149.9	5.0	62.8	4.3	5.4	16.0	...	6.3	12.3	3.0	13.3	...	5.4	22.3	9.7			
50	163.5	3.9	63.3	5.4	7.5	17.6	...	5.9	16.1	1.7	15.4	...	3.6	30.4	12.9			
55	178.9	3.9	54.9	8.4	5.7	22.0	...	8.8	25.1	3.5	13.9	...	3.6	35.8	14.1			
60	192.2	3.8	47.7	11.5	8.2	30.7	...	9.5	29.0	3.4	7.5	...	5.4	39.2	19.6			
平成 2	227.3	4.0	44.6	16.8	8.8	37.1	...	14.5	35.9	5.7	9.9	...	7.5	47.1	25.6			
7	262.9	7.1	45.8	22.3	9.3	42.4	15.3	15.3	42.3	4.9	11.0	12.2	8.3	44.2	31.6			
12	282.9	7.3	44.0	20.0	10.0	44.3	16.4	17.4	48.4	7.3	9.1	18.1	8.9	54.1	30.0			
15	296.9	6.4	47.1	25.0	10.0	45.0	16.1	19.0	50.9	8.1	10.5	21.4	7.8	56.0	35.0			
16	303.7	7.4	42.0	24.7	11.7	49.8	18.7	20.6	53.2	8.2	10.1	17.1	10.0	52.1	36.4			
17	313.9	8.5	46.3	23.1	10.2	46.9	17.0	23.5	54.1	9.0	6.8	21.4	10.7	50.9	33.3			
18	306.1	6.2	43.3	28.1	10.5	47.6	14.4	20.7	56.0	9.5	7.5	15.8	8.5	49.8	38.5			
19	314.3	9.2	40.5	25.8	10.0	46.1	15.5	18.7	59.3	10.2	8.4	21.6	9.2	54.9	35.9			
20	319.7	8.6	44.7	27.6	9.6	45.9	16.7	20.8	55.8	19.7	12.0	21.4	8.7	54.9	37.2			

注：1) 死因名・死因内容はICD-10による。  
 2) 「子宮」は女子人口10万対の死亡率である。  
 3) 「前立腺」は男子人口10万対の死亡率である。

図9 悪性新生物の主な部位別死亡率の年次推移（佐賀県）

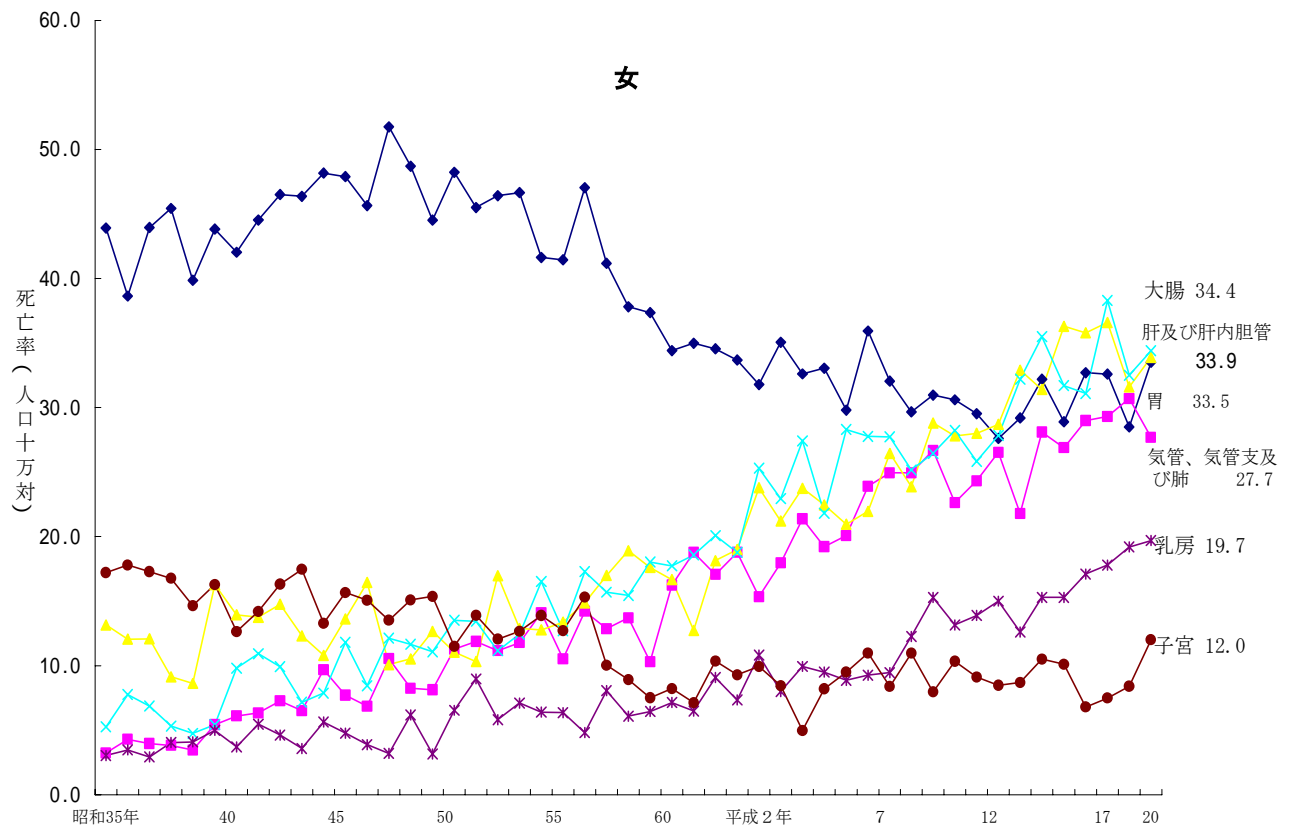
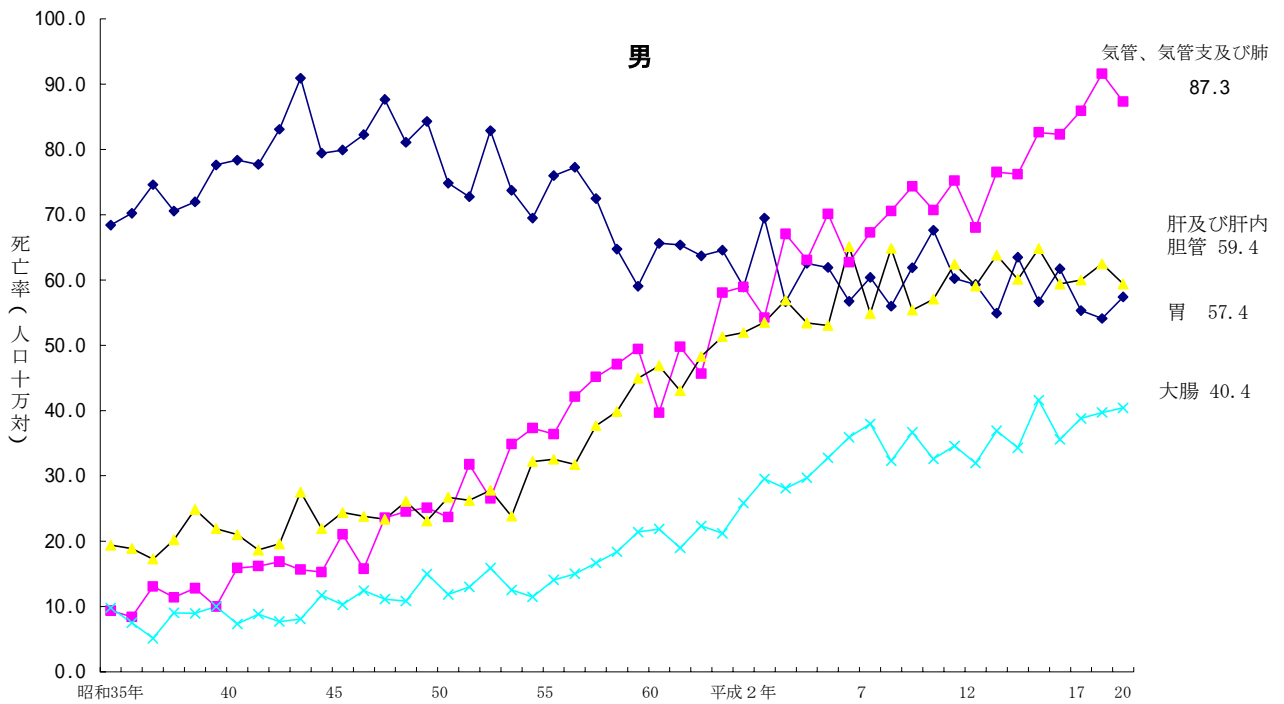


表11 悪性新生物の主な部位別にみた死亡数・死亡率の年次推移

佐賀県

	胃		気管、気管支 及び肺		肝及び肝内胆管		大腸		乳房		子宮	
総数												
年次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和 35 年	524	55.6	58	6.2	152	16.1	70	7.4	15	1.6	85	17.2
40	521	59.8	66	7.6	165	18.9	66	7.6	24	2.8	75	16.3
45	526	62.8	103	12.3	134	16.0	81	9.7	25	3.0	59	13.3
50	529	63.3	135	16.1	147	17.6	108	12.9	14	1.7	68	15.4
55	474	54.9	217	25.1	190	22.0	122	14.1	30	3.5	63	13.9
60	425	47.7	258	29.0	273	30.7	175	19.6	30	3.4	35	7.5
平成 2	391	44.6	315	35.9	325	37.1	224	25.6	50	5.7	46	9.9
7	404	45.8	373	42.3	374	42.4	279	31.6	43	4.9	51	11.0
12	385	44.0	423	48.4	387	44.3	262	30.0	64	7.3	42	9.1
15	409	47.1	442	50.9	391	45.0	304	35.0	70	8.1	48	10.5
16	364	42.0	461	53.2	431	49.8	315	36.4	71	8.2	46	10.1
17	400	46.3	467	54.1	405	46.9	287	33.3	78	9.0	31	6.8
18	372	43.3	481	56.0	409	47.6	331	38.5	78	9.1	31	7.5
19	347	40.5	508	59.3	395	46.1	307	35.9	87	10.2	38	12.0
20	381	44.7	475	55.8	391	45.9	317	37.2	89	10.4	54	12.0
男												
年次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和 35 年	307	68.4	42	9.4	87	19.4	44	9.8	-	-	・	・
40	319	77.6	41	10.0	90	21.9	41	10.0	1	0.2	・	・
45	312	79.4	60	15.3	86	21.9	46	11.7	-	-	・	・
50	332	84.3	99	25.1	91	23.1	59	15.0	-	-	・	・
55	285	69.5	153	37.3	132	32.2	47	11.5	1	0.2	・	・
60	251	59.1	210	49.4	191	44.9	91	21.4	-	-	・	・
平成 2	244	59.0	244	59.0	215	51.9	107	25.9	-	-	・	・
7	237	56.7	262	62.7	272	65.1	150	35.9	-	-	・	・
12	249	60.2	311	75.2	258	62.4	143	34.6	-	-	・	・
15	261	63.5	313	76.2	247	60.1	141	34.3	-	-	・	・
16	232	56.7	338	82.6	265	64.8	170	41.6	1	0.2	・	・
17	251	61.7	335	82.3	242	59.4	145	35.6	-	-	・	・
18	224	55.3	348	85.9	243	60.0	157	38.8	1	0.2	・	・
19	218	54.1	369	91.6	252	62.5	160	39.7	-	-	・	・
20	230	57.4	350	87.3	238	59.4	162	40.4	-	-	・	・
女												
年次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和 35 年	217	43.9	16	3.2	65	13.2	26	5.3	15	3.0	85	17.2
40	202	43.8	25	5.4	75	16.3	25	5.4	23	5.0	75	16.3
45	214	48.2	43	9.7	48	10.8	35	7.9	25	5.6	59	13.3
50	197	44.5	36	8.1	56	12.7	49	11.1	14	3.2	68	15.4
55	189	41.6	64	14.1	58	12.8	75	16.5	29	6.4	63	13.9
60	174	37.4	48	10.3	82	17.6	84	18.0	30	6.4	35	7.5
平成 2	147	31.8	71	15.4	110	23.8	117	25.3	50	10.8	46	9.9
7	167	35.9	111	23.9	102	22.0	129	27.8	43	9.3	51	11.0
12	136	29.5	112	24.3	129	28.0	119	25.8	64	13.9	42	9.1
15	148	32.2	129	28.1	144	31.4	163	35.5	70	15.3	48	10.5
16	132	28.9	123	26.9	166	36.3	145	31.7	70	15.3	46	10.1
17	149	32.7	132	29.0	163	35.8	142	31.1	78	17.1	31	6.8
18	148	32.6	133	29.3	166	36.6	174	38.3	81	17.8	34	7.5
19	129	28.5	139	30.7	143	31.6	147	32.5	87	19.2	38	8.4
20	151	33.5	125	27.7	153	33.9	155	34.4	89	19.7	54	12.0

注「子宮」の死亡率は女子人口10万対の率である。

## B 心疾患

心疾患は、昭和35年から58年までは第3位であったが、59年に脳血管疾患に代わって第2位となり、平成7年から第3位となったが、12年からは再び第2位となった。

総死亡に占める割合は、昭和35年は8.7%、50年は15.0%となり、平成20年は15.0%となっている。

死亡率は、昭和35年で70台、45年で100台、48年で120台と、多少の起伏を伴いながら上昇し、平成5年の164.7をピークに6年から8年にかけて大幅に減少した。平成20年は158.0で前年の153.7を上回った。全国は144.4で、全国順位は25位となっている。

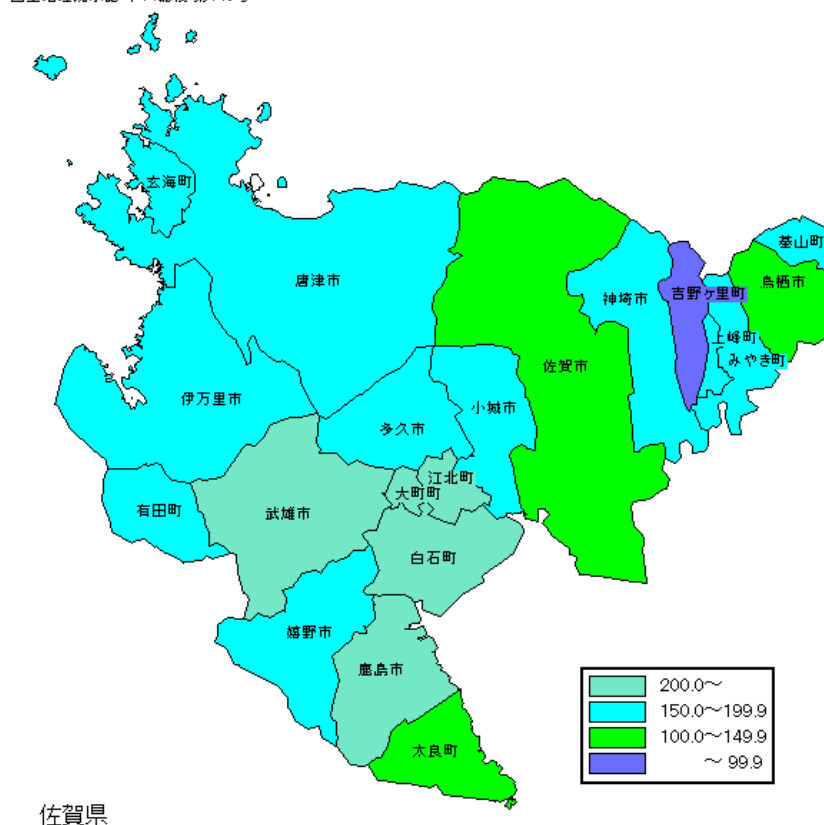
市郡別心疾患死亡率を表12、図10で見ると、最高は杵島郡の248.7、次いで鹿島市の212.5、最低は神埼郡の92.4、鳥栖市の106.9で、県北西部に高い傾向がみられる。

表12 市郡別心疾患死亡率

平成20年 佐賀県

市郡別	死亡率 (人口10万対)
<b>佐賀県</b>	<b>158.0</b>
杵島郡	248.7
鹿島市	212.5
武雄市	206.6
多久市	192.0
西松浦郡	171.1
東松浦郡	169.3
唐津市	167.1
伊万里市	166.6
小城市	163.1
三養基郡	158.8
嬉野市	157.7
神埼市	153.5
佐賀市	132.8
藤津郡	109.0
鳥栖市	106.9
神埼郡	92.4

国土地理院承認 平14総規 第143号



### C 脳血管疾患

脳血管疾患は、昭和28年以降第1位であったが、53年に悪性新生物に代わって第2位となり、さらに59年からは心疾患に代わり第3位となった。以来、平成7年から11年に第2位になったのを除いて第3位となっている。

これは、平成7年1月からのICD-10の導入による原死因選択ルールの特異化等によるところが大きく、死亡傾向が急激に変化したものとは考えにくい。

総死亡数に占める割合は、昭和47年が24.5%とピークであったが、平成20年は11.1%と過去最低となった。

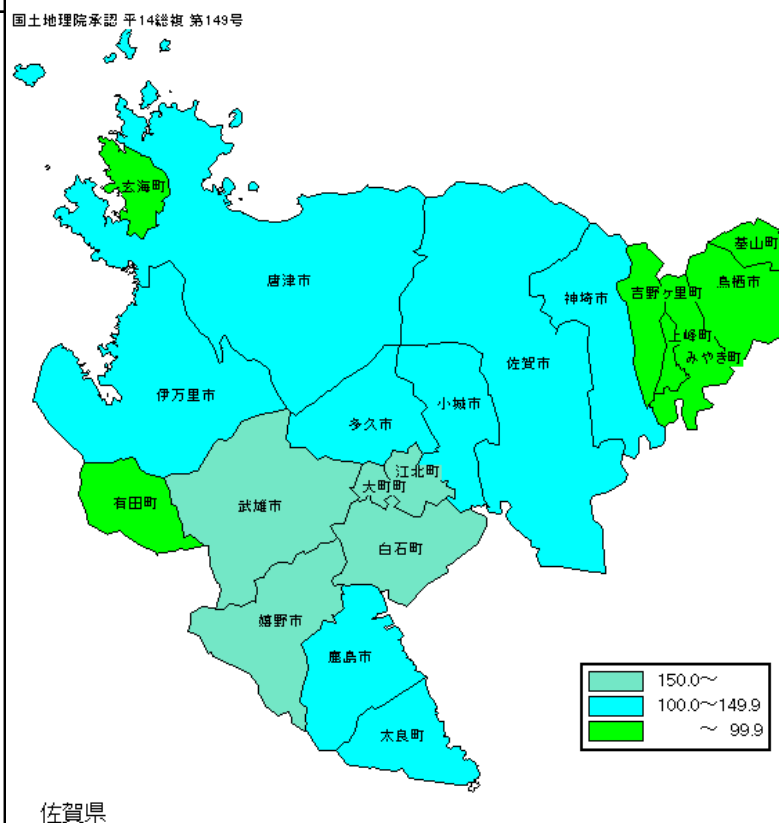
死亡率は、戦後年々漸増してきたが、昭和47年の202.9以降減少し、平成5年の104.9が最低となった。平成20年は117.4（全国順位21位）で全国の100.9を上回っている。

市郡別脳血管疾患死亡率を表13、図11で見ると、最高は杵島郡の188.2、次いで武雄市の172.8で、最低は鳥栖市の69.8、神埼郡の73.9である。

表13 市郡別脳血管疾患死亡率

平成20年 佐賀県

市郡別	死亡率 (人口10万対)
<b>佐賀県</b>	<b>117.4</b>
杵島郡	188.2
武雄市	172.8
嬉野市	154.3
伊万里市	145.6
鹿島市	144.9
神埼市	114.4
唐津市	111.7
小城市	110.2
藤津郡	109.0
佐賀市	107.6
多久市	105.1
西松浦郡	99.8
三養基郡	96.0
東松浦郡	92.4
神埼郡	73.9
鳥栖市	69.8



D 不慮の事故

死因順序は、昭和 56 年以降第 5 位である。

死亡率は、多少の上下はあるものの昭和 50 年代からほぼ横ばい状態にあり、平成 20 年は 38.7 で全国 16 位であった。

不慮の事故の中で最も多いのは交通事故（死亡率 9.7）であるが、うち路上交通事故の死亡率は 9.9 と、全国の 5.4 を大きく上回っている。

次に多いのは不慮の窒息（死亡率 9.5）で、死亡者の 80.3 % を 65 歳以上の高齢者で占めている。

また、不慮の事故を年齢階級別にみると、1～34 歳で例年上位に位置している。

表14 路上交通事故死亡率（人口10万対）及び自動車保有台数の年次推移

年次	路上交通事故死亡率		自動車保有台数(各年3月末)	
	佐賀県	全国	佐賀県	全国
昭和30年	4.0	6.7	7 699	1 311 781
35	12.9	14.4	16 990	2 775 189
40	22.7	16.5	40 831	6 984 864
45	27.0	20.9	126 891	16 528 521
50	15.9	12.8	218 267	27 870 475
55	10.5	10.1	311 222	37 333 250
60	11.1	10.5	384 837	46 009 247
平成2	16.4	11.9	459 958	57 993 866
7	16.9	11.4	540 614	68 103 696
12	14.6	9.5	595 127	74 582 612
15	13.6	8.0	618 588	76 892 517
16	11.4	7.6	624 691	77 390 245
17	9.8	7.1	632 469	78 278 880
18	10.9	6.5	639 208	78 992 060
19	9.0	6.0	642 393	79 236 095
20	9.9	5.4	644 109	79 080 762

注：路上交通事故の発生地別による死亡率である。

ただし、平成2年以前は自動車事故の死亡率である。



# 第3章 乳児死亡

## 1 乳児死亡の動き

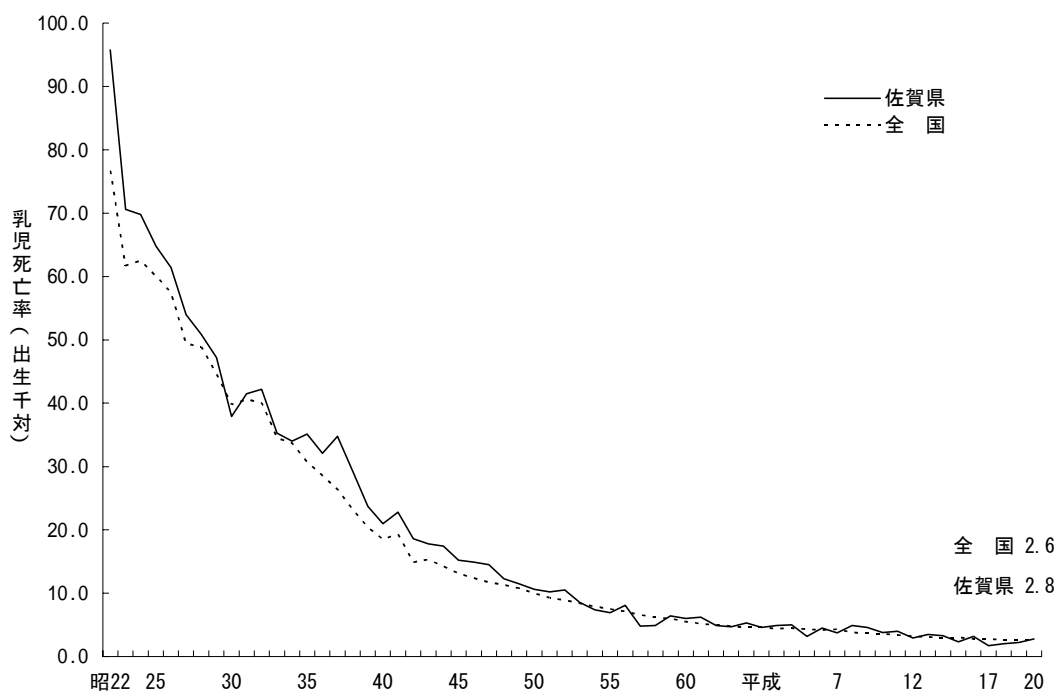
平成 20 年の乳児死亡数は 22 人で前年の 17 人より 5 人増加し、乳児死亡率（出生千対）も 2.8 と前年の 2.2 を上回った。

生後 1 年未満の死亡を乳児死亡といい、通常、出生千に対する乳児死亡率で観察する。死亡統計で特にこれを取り上げて観察の対象とするのは、乳児の死亡は妊娠中の母体の保護と出生後の乳児の適切な保育によって、比較的容易に改善が図られるものであり、これらの条件は母親と乳児を取り巻く生活環境に左右される。乳児死亡率は、このような理由と算出の容易さから、公衆衛生の指標としてしばしば使われている。

本県の乳児死亡の推移を図 1 でみると、戦後は医療の進歩や公衆衛生の向上などにより急速な低下傾向をたどり、近年は昭和 25 年当時と比べると 1/20 以下に激減している。

乳児死亡率を全国と比べると、戦後長期間にわたり高率で推移していたが、昭和 54 年以降は高低をくり返している。平成 16 年に全国順位 8 位と高率に転じたものの、平成 17 年は昭和 57、58 年、平成 5 年以来の全国最下位であったが、平成 20 年は全国平均の 2.6 を上回り順位は 9 位となった。

図 1 乳児死亡率の年次推移



## 2 生存期間と乳児死亡

平成 20 年の乳児死亡率を生存期間によって分けると表 1、図 2 のとおりである。

死亡 22 人のうち 4 週未満のいわゆる新生児死亡が 7 人で、全乳児死亡の 31.8% を占めているが、特に生後 1 週未満の早期新生児死亡は 4 人で全体の 18.2% であり、うち 3 人が 1 日未満となっている。

表1 生存期間別・年次別乳児死亡率(出生千対)

佐賀県

年次	総数	4週未満	(再掲)		4週～ 3ヶ月未満	3ヶ月～ 6ヶ月未満	6ヶ月～ 9ヶ月未満	9ヶ月～ 1年未満
			1週未満	1日未満				
昭和30年	37.9	20.7	11.3	2.6	7.9	5.1	2.4	1.9
35	35.1	18.0	10.9	2.1	7.0	5.0	3.1	2.0
40	21.0	12.9	9.3	1.9	2.8	2.3	1.7	1.3
45	15.2	9.1	6.6	2.4	2.2	1.4	1.3	1.2
50	10.6	7.8	6.5	2.1	0.8	0.9	0.7	0.5
55	6.8	3.9	2.7	0.8	1.3	0.8	0.4	0.6
60	6.0	4.4	3.6	1.4	0.4	0.4	0.3	0.5
平成2	4.6	2.8	1.8	0.8	0.5	0.7	0.2	0.3
7	3.7	1.6	1.1	0.6	0.9	0.6	0.5	0.1
12	2.9	1.5	1.4	0.7	0.8	0.2	0.2	0.1
17	1.7	0.7	0.7	0.4	0.4	0.1	0.3	0.3
19	2.2	0.8	0.5	0.1	0.5	0.3	0.5	0.1
20	2.8	0.9	0.5	0.4	0.6	0.5	0.4	0.4
割合(20)	100.0	31.8	18.2	13.6	22.7	18.2	13.6	13.6

図2 生存期間別・年次別乳児死亡率 佐賀県

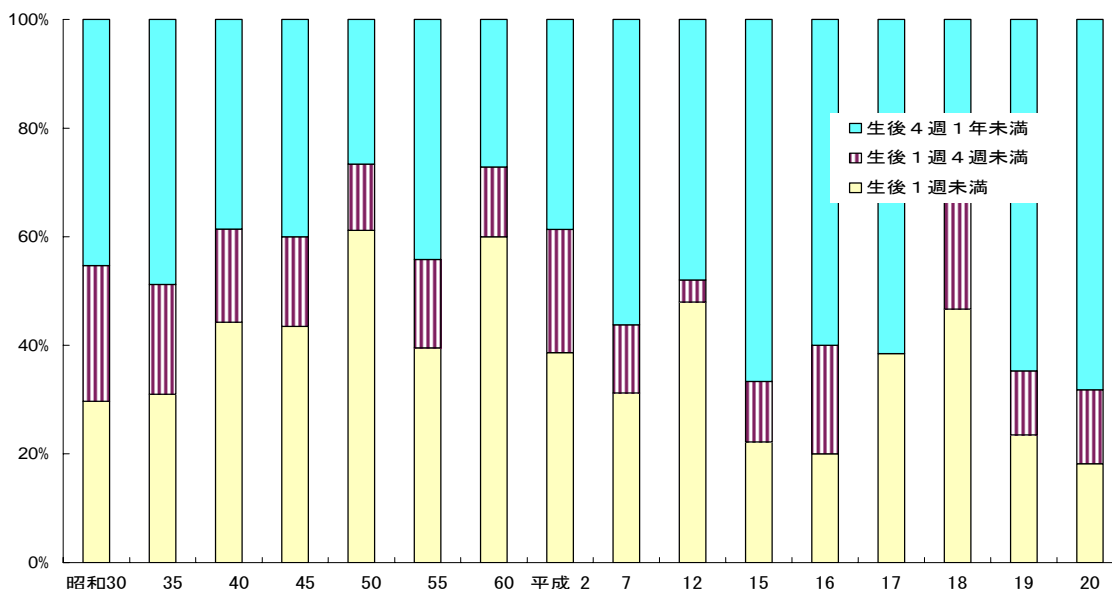
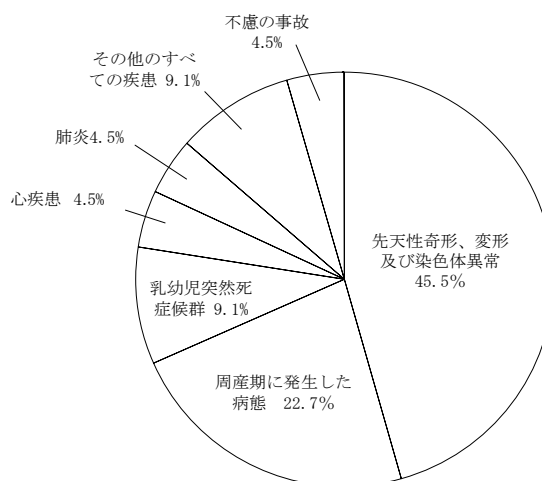


図3 乳児死亡の原因別割合 平成20年 佐賀県

### 3 乳児死亡の原因

乳児死亡の原因は、先天的なものと後天的なものに大きく分けられる。

平成20年について死因別割合をみると図3のとおりで、先天性奇形、変形及び染色体異常が45.5%、周産期に発生した病態が22.7%となっている。



# 第4章 死産

## 1 死産の動き

平成20年の死産数は199胎で前年の223胎より減少し、死産率（出産千対）は、24.8で前年の28.1を下回った。

自然死産率は10.1で全国の11.3を下回ったが、人工死産率は14.7と全国の13.9を上回っており、この状況は昭和40年以降変わっていない。

死産率の年次推移を図1で見ると、自然死産は昭和41年をピークにその後は低下を続け、人工死産も28年をピークに多少の起伏はあるものの低下傾向にある。なお、33年からは自然死産率が高くなっていったが、58年から再び人工死産率が高くなっている。

図1 自然－人工別死産率の年次推移 佐賀県

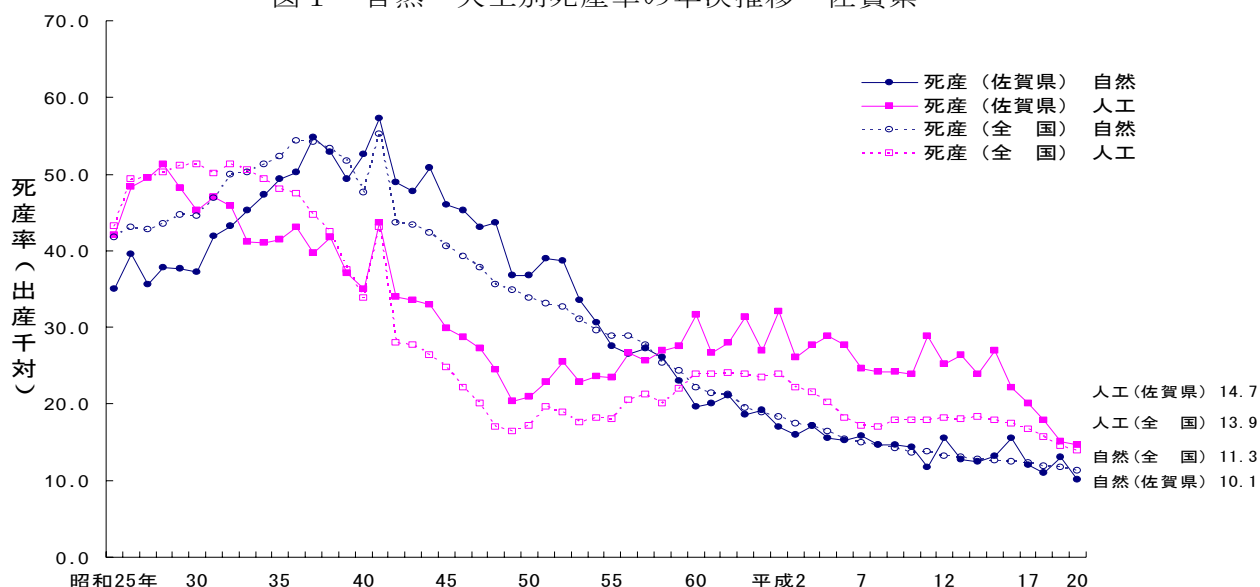


表1 自然－人工別死産数と死産率の年次推移

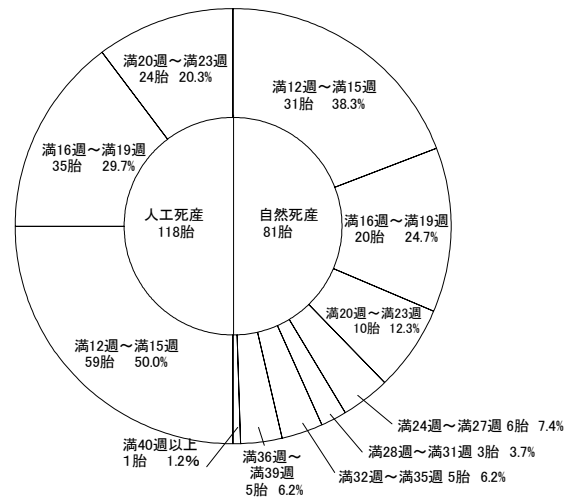
佐賀県

年次	総数		自然死産		人工死産		全国死産率	
	実数	死産率	実数	死産率	実数	死産率	自然	人工
昭和25年	2 501	77.0	1 136	35.0	1 365	42.0	41.7	43.2
30	2 001	82.5	903	37.2	1 098	45.2	44.5	51.3
35	1 729	90.9	940	49.4	789	41.5	52.3	48.1
40	1 386	87.6	832	52.6	554	35.0	47.6	33.8
45	1 083	75.9	656	46.0	427	29.9	40.6	24.7
50	801	57.7	509	36.7	292	21.0	33.8	17.1
55	670	51.0	363	27.6	307	23.4	28.8	18.0
58	669	52.9	329	26.0	340	26.9	25.4	20.1
平成60	632	51.2	242	19.6	390	31.6	22.1	23.9
平成2	494	49.2	171	17.0	323	32.1	18.3	23.9
7	368	40.5	144	15.8	224	24.6	14.9	17.2
12	371	40.7	141	15.5	230	25.2	13.2	18.1
17	249	32.1	93	12.0	156	20.1	12.3	16.7
18	228	29.0	87	11.0	141	17.9	11.9	15.6
19	223	28.1	103	13.0	120	15.1	11.7	14.5
20	199	24.8	81	10.1	118	14.7	11.3	13.9

## 2 妊娠期間別の死産

図2 妊娠期間別死産の割合(自然-人工) 20年 佐賀県

妊娠期間別について図2でみると、自然死産では満12～15週が38.3%、満16～19週が24.7%、満20～23週が12.3%と、満12～23週までが全体の75.3%を占めている。



## 3 人工妊娠中絶

死産統計には、母体保護法による妊娠満12週から満21週までの人工妊娠中絶を含んでいる。同法による人工妊娠中絶の件数は、昭和25年の3,449件から年々増加し、27年に人工妊娠中絶の理由として「経済的理由により母体の健康を著しく害するおそれのある場合」が認められてから急増した。しかし、31年の13,721件をピークにその後は減少を続け、平成20年度には2,339件となっている。

妊娠週数別割合をみると表2のとおりで、母体の負担が比較的軽い満11週以内の妊娠初期に多く、長年9割台を占めている。

表2 人工妊娠中絶数と率及び妊娠週数別割合の年次推移

佐賀県

年次	人工妊娠中絶数	人工妊娠中絶率		妊娠週数別割合 (%)			
		佐賀県	全国	満11週以内	満12～19週	満20週以後	不詳
昭和 25年	3 449	14.4	15.0	68.0	22.6	9.2	0.2
30	12 769	52.1	50.2	89.0	7.7	3.3	0.0
35	8 221	34.3	42.0	92.1	5.3	2.6	0.0
40	6 998	30.4	30.2	94.5	3.3	2.2	—
45	6 041	26.4	24.8	95.5	3.0	1.5	0.0
50	4 918	22.4	22.1	96.6	2.2	1.2	—
55	4 795	22.2	19.5	94.2	4.3	1.5	—
60	4 711	22.3	17.8	93.3	4.6	2.1	—
平成 2	4 981	23.9	14.5	94.0	4.8	1.3	—
7	3 966	19.8	11.1	95.3	4.0	0.7	—
12	3 552	18.5	11.7	94.9	4.5	0.6	—
15年度	3 215	17.1	11.2	94.8	4.4	0.8	—
17	2 824	15.3	10.3	95.8	3.4	0.8	—
18	2 637	14.7	9.9	95.8	3.6	0.5	—
19	2 439	13.7	9.3	96.6	2.9	0.5	—
20	2 339	13.4	8.8	97.3	2.5	0.2	—

注:率は15歳以上50歳未満の女子人口千対である。

資料:厚生労働省「母体保護統計」、平成14年から「衛生行政報告例」。

## 第5章 周産期死亡

周産期死亡とは、妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡とを合わせた死亡をいい、これは、周産期の児の死亡には母体の健康状態に強く作用されるという共通性が認められるためである。つまり、周産期死亡率（出産（出生+妊娠満22週以後の死産）千対）が高くなるほど母体の保護が不十分であるといえる。

平成20年の妊娠満22週以後の死産数は24胎で、死亡率は3.1で前年の3.0を上回った。

一方、早期新生児死亡数は前年と同じ4人で、死亡率は前年と同率の0.5であった。

また、早期新生児死亡率を図1、表1でみると、昭和37年の13.4をピークに年々低下し、57年には2.0となった。その後も多少の起伏はあるものの低下傾向にある。

なお、平成20年の周産期死亡率3.6は全国41位である。

図1 周産期死亡率の年次推移 佐賀県

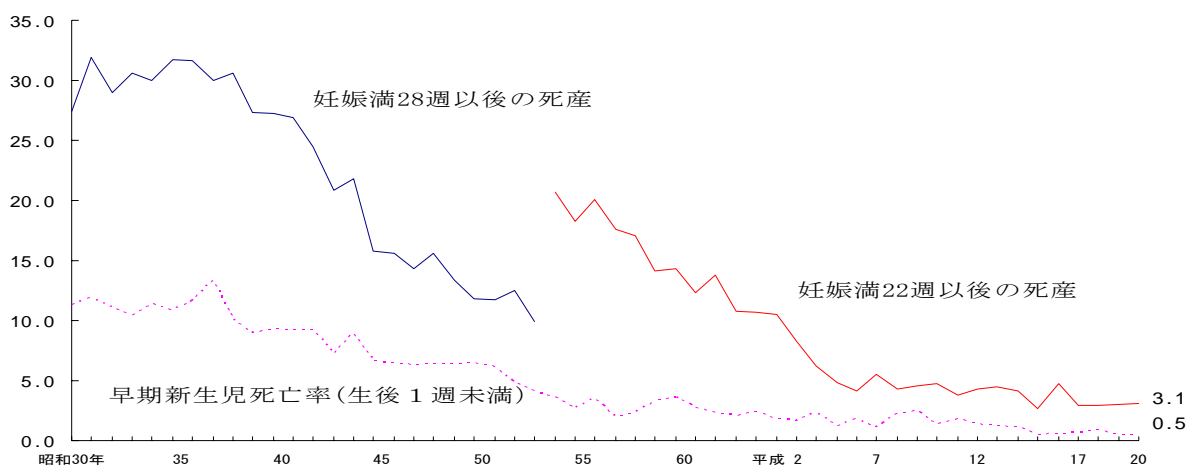


表1 周産期死亡数と率の年次推移

佐賀県

年次	周産期死亡		妊娠満22週以後の死産		早期新生児死亡		周産期死亡中妊娠満22週以後の死産のしめる割合(%)
	死亡数	死亡率	死産数	死産率	死亡数	死亡率	
昭和30年	862	38.7	611	27.4	251	11.3	70.9
35	737	42.6	549	31.7	188	10.9	74.5
37	657	43.3	454	30.0	203	13.4	69.1
40	527	36.5	393	27.2	134	9.3	74.6
45	296	22.4	209	15.8	87	6.6	70.6
50	240	18.3	155	11.8	85	6.5	64.6
55	266	20.9	232	18.3	34	2.7	87.2
57	242	19.5	218	17.6	24	2.0	90.1
60	212	17.9	170	14.3	42	3.6	80.2
平成2	118	12.2	101	10.5	17	1.8	85.6
7	58	6.6	48	5.5	10	1.1	82.8
12	50	5.7	38	4.3	12	1.4	76.0
16	42	5.3	37	4.7	5	0.6	88.1
17	27	3.6	22	2.9	5	0.7	81.5
18	29	3.8	22	2.9	7	0.9	75.9
19	27	3.5	23	3.0	4	0.5	85.2
20	28	3.6	24	3.1	4	0.5	85.7
全国(20)	4 720	4.3	3 751	3.4	969	0.9	79.5

注：53年以前は満28週以後の死産

次に平成20年の周産期死亡を原因別にみると表2のとおりで、母側病態では「母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児」が71.4%を占め、児側病態では「周産期に発生した病態」が92.9%を占めている。

表2 妊娠満22週以後の死産-早期新生児死亡・原因別周産期死亡数と死亡割合（平成20年）

死 因 (母側病態・児側病態)		死 亡 数			構 成 割 合 (%)			
		総 数	妊娠満22週以後の死産	早 期新生児死亡	総 数	妊娠満22週以後の死産	早 期新生児死亡	
総 数		28	24	4	100.0	100.0	100.0	
母	母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	20	17	3	71.4	70.8	75.0	
	現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児及び新生児	7	7	-	25.0	29.2	-	
	母体の妊娠合併症により影響を受けた胎児及び新生児	2	1	1	7.1	4.2	25.0	
	胎盤、臍帯及び卵膜の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	11	9	2	39.3	37.5	50.0	
	その他の分娩合併症により影響を受けた胎児及び新生児	-	-	-	0.0	-	0.0	
側	胎盤又は母乳を介して有害な影響を受けた胎児及び新生児	-	-	-	-	-	-	
	母体に原因なし	8	7	1	28.6	29.2	25	
	児	感染症及び寄生虫症	-	-	-	-	-	-
		新生物	-	-	-	-	-	-
		血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	-	-	-	-	-	-
内分泌、栄養及び代謝疾患		-	-	-	-	-	-	
精神及び行動の障害		-	-	-	-	-	-	
神経系の疾患		-	-	-	-	-	-	
眼及び付属器の疾患		-	-	-	-	-	-	
耳及び乳様突起の疾患		-	-	-	-	-	-	
循環器系の疾患		-	-	-	-	-	-	
呼吸器系の疾患		-	-	-	-	-	-	
消化器系の疾患		-	-	-	-	-	-	
皮膚及び皮下組織の疾患		-	-	-	-	-	-	
筋骨格系及び結合組織の疾患		-	-	-	-	-	-	
側		尿路性器系の疾患	-	-	-	-	-	-
		周産期に発生した病態	26	24	2	92.9	100.0	50.0
	先天奇形、変形及び染色体異常	2	-	2	7.1	0.0	50	
	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	-	-	-	-	-	-	
側	損傷、中毒及びその他の外因の影響	-	-	-	-	-	-	
	傷病及び死亡の外因	-	-	-	-	-	-	

注：「傷病及び死亡の外因」については「損傷、中毒及びその他の外因の影響」の再掲

## 第6章 婚姻と離婚

表1 婚姻数と率の年次推移

年次	婚姻数	婚姻率(人口千対)	
		佐賀県	全 国
昭和 22 年	12 133	13.2	12.0
25	8 451	8.9	8.6
30	7 134	7.3	8.0
35	7 400	7.8	9.3
40	6 230	7.1	9.7
45	6 118	7.3	10.0
50	6 086	7.3	8.5
55	5 511	6.4	6.7
60	5 012	5.6	6.1
平成 2	4 539	5.2	5.9
7	4 550	5.2	6.4
12	4 749	5.4	6.4
17	4 155	4.8	5.7
18	4 270	5.0	5.8
19	4 213	4.9	5.7
20	4 210	4.9	5.8

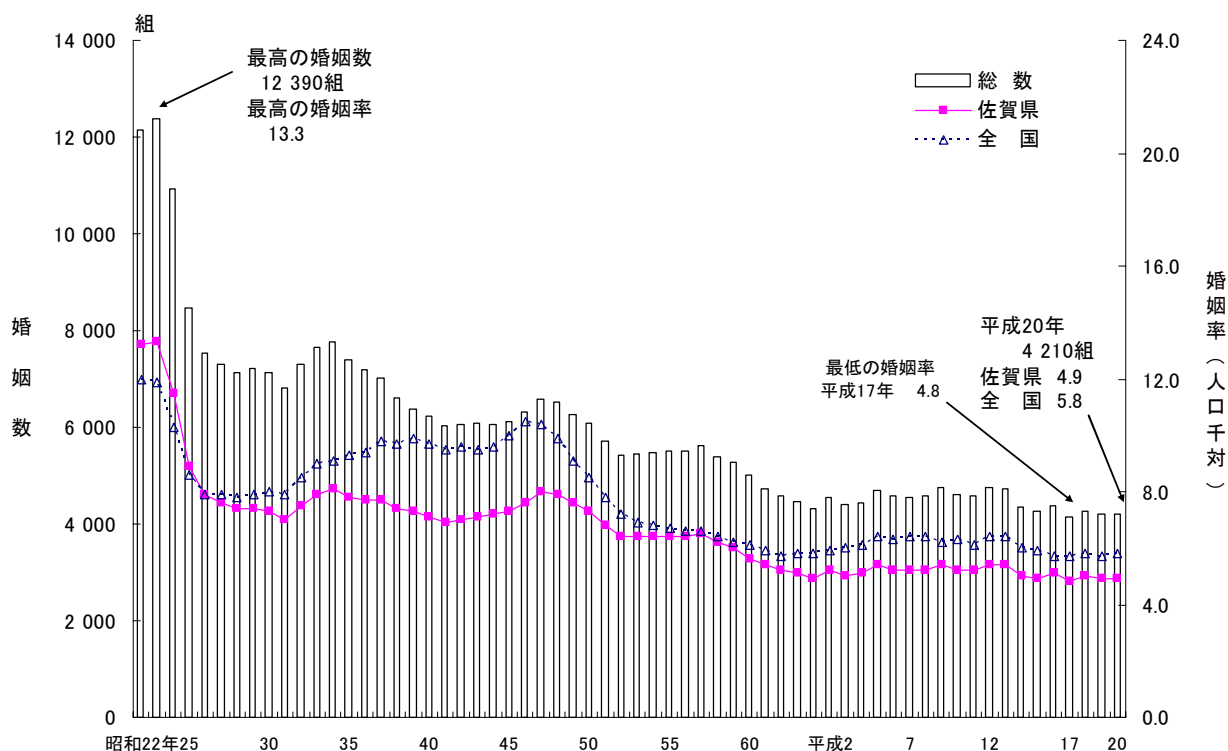
### 1 婚姻の動き

平成20年の本県の婚姻数は4,210件で前年の4,213件より減少し、婚姻率（人口千対）は前年と同率の4.9となっている。

婚姻率の年次推移は、終戦直後の婚姻ブームのあと急速に低下し、昭和30年代の初めは上昇の傾向にあったが、34年を境にしてゆるやかに低下を続けた。

40年代に入ると、戦後第2の婚姻ブームを反映して上昇を始めたが、47年をピークに低下し、平成2年以降は多少のばらつきはあるものの、ほぼ横ばいで推移している。

図1 婚姻数及び婚姻率の年次推移



## 2 結婚生活に入った年齢

平成 20 年に結婚生活に入った人の平均初婚年齢は夫 29.3 歳、妻 27.9 歳で、夫は近年ほぼ横ばいで推移していたが、平成 20 年は前年から 0.3 歳上昇し、妻は昭和 40 年代後半から徐々に上昇を続け、平成 15 年には 27 歳台となっている。

また、年齢別割合は夫妻ともに 25～29 歳が最も多く、夫 38.6%、妻 40.8%となっている。

表 2 平均初婚年齢および夫妻の年齢差の年次推移(各届出年に結婚生活に入り届け出たもの)

年次	佐賀県			全 国		
	夫	妻	年齢差	夫	妻	年齢差
昭和25年	25.7 歳	23.0 歳	2.7 歳	25.9 歳	23.0 歳	2.9 歳
30	26.3	23.6	2.7	26.6	23.8	2.8
35	27.0	24.4	2.6	27.2	24.4	2.8
40	27.3	24.8	2.5	27.2	24.5	2.7
45	26.7	24.1	2.6	26.9	24.2	2.7
50	26.6	24.5	2.1	27.0	24.7	2.3
55	27.4	25.1	2.3	27.8	25.2	2.6
60	27.9	25.5	2.4	28.2	25.5	2.7
平成 2	28.4	25.9	2.5	28.4	25.9	2.5
7	28.4	26.3	2.1	28.5	26.3	2.2
12	28.0	26.5	1.5	28.8	27.0	1.8
16	28.6	27.0	1.7	29.6	27.8	1.8
17	29.0	27.4	1.5	29.8	28.0	1.8
18	29.0	27.6	1.4	30.0	28.2	1.8
19	29.0	27.5	1.5	30.1	28.3	1.8
20	29.3	27.9	1.4	30.2	28.5	1.7

注：同居を始めたときの年齢による。

表 3 初婚夫妻の年齢階級別割合 (平成20年)

佐賀県

	初 婚 者 数				平成20年に結婚生活に入り届け出たもの(再掲)			
	実 数		割 合		実 数		割 合	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
総数	3,414	3,524	100.0	100.0	3,146	3,245	100.0	100.0
20歳未満	49	100	1.4	2.8	44	89	1.4	2.7
20～24	697	938	20.4	26.6	645	851	20.5	26.2
25～29	1,319	1,438	38.6	40.8	1,208	1,334	38.4	41.1
30～34	854	740	25.0	21.0	800	693	25.4	21.4
35～39	334	229	9.8	6.5	313	214	9.9	6.6
40～44	89	51	2.6	1.4	82	46	2.6	1.4
45～49	37	12	1.1	0.3	31	9	1.0	0.3
50歳以上	35	16	1.0	0.5	23	9	0.7	0.3
不詳	-	-	-	-	-	-	-	-

注：同居を始めたときの年齢による。



### 3 離婚の動き

平成20年の本県の離婚数は1,468件で前年の1,542件より減少し、離婚率(人口千対)は1.72で前年の1.80を下回った。

離婚率の年次推移を図2でみると、昭和39年までは低下、その後は多少の起伏を伴いながらも上昇を続けていたが59年をピークに低下し、再び平成2年以降上昇していたものの、平成18年以降再び減少している。

同居期間別(表5)にみると、5年未満が503件(離婚件数の34.3%)で最も多く、次いで5~10年未満の325件(同22.1%)、20年以上の233件(同15.9%)となっている。

離婚件数を前年と比較すると、5~10年未満での減少が目立っている。

表4 離婚数と率の年次推移

年次	離婚数	離婚率(人口千対)	
		佐賀県	全国
昭和22年	1 031	1.12	1.02
25	943	1.00	1.01
30	805	0.83	0.84
35	665	0.71	0.74
40	641	0.74	0.79
45	658	0.79	0.93
50	751	0.90	1.07
55	859	0.99	1.22
60	1 106	1.24	1.39
平成2	991	1.13	1.28
7	1 224	1.39	1.60
12	1 635	1.87	2.10
16	1 714	1.98	2.15
17	1 759	2.04	2.08
18	1 658	1.93	2.04
19	1 542	1.80	2.02
20	1 468	1.72	1.99

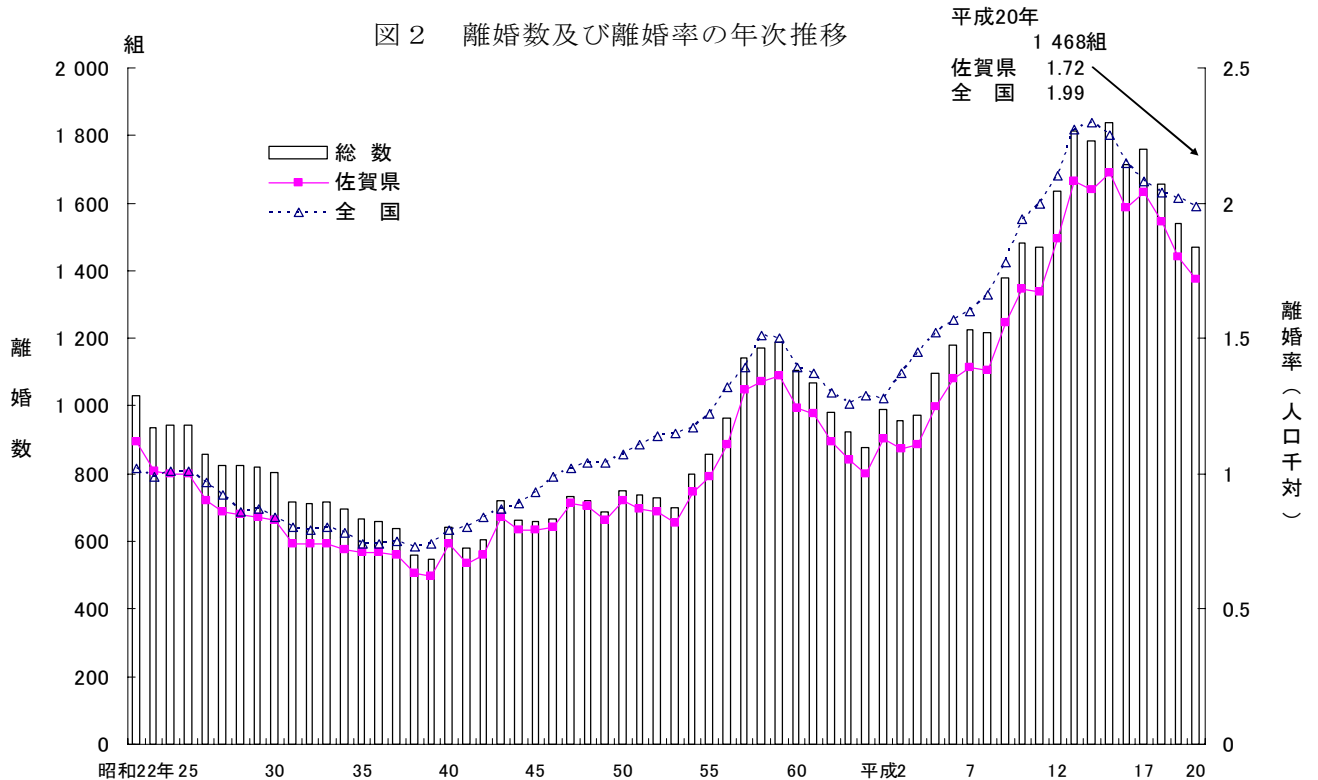


図3 同居期間別離婚数の年次推移（佐賀県）

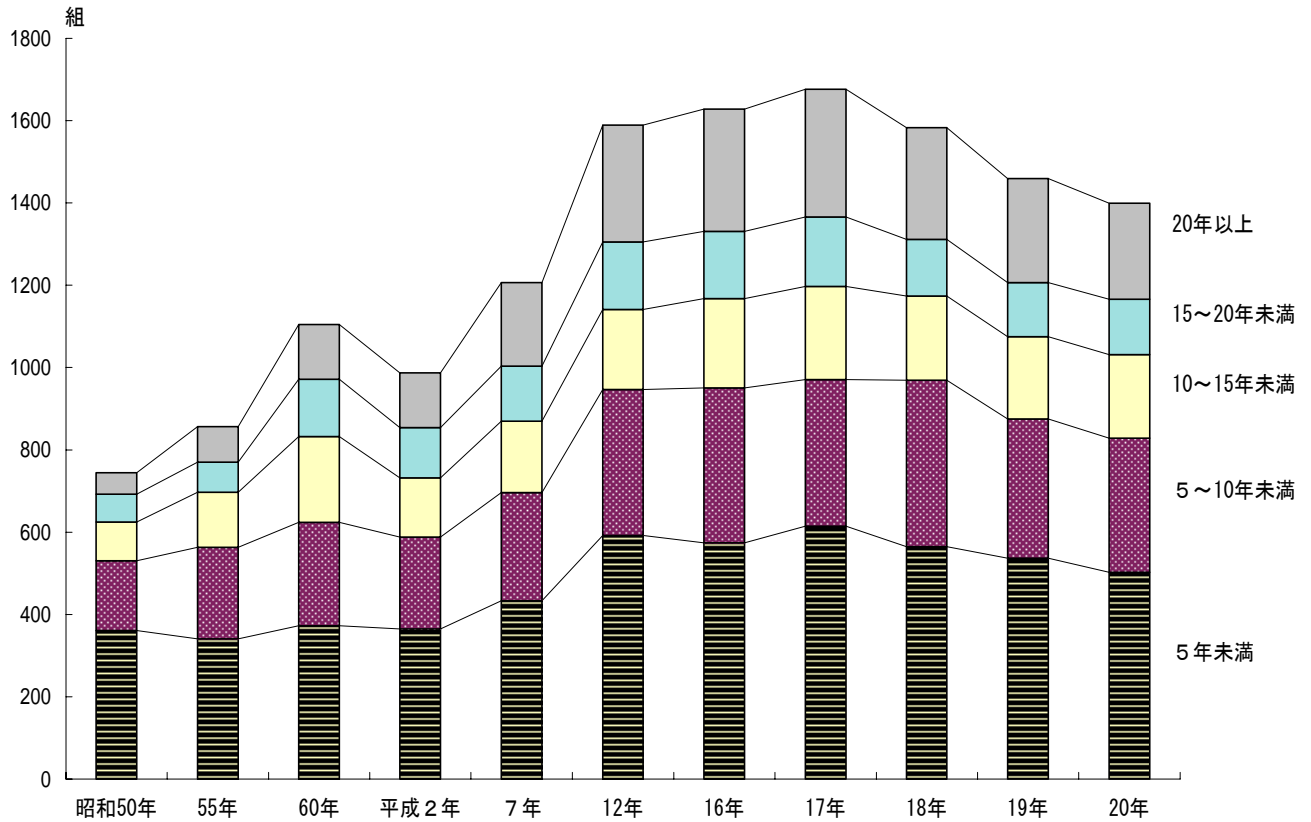


表5 同居期間別離婚数の年次推移

佐賀県

	昭和50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	16年	17年	18年	19年	平成20年		
											件数	割合 %	対前年増減率%
総数	751	859	1 106	991	1 224	1 635	1 714	1 759	1 658	1 542	1 468	100.0	11.5
5年未満	361	341	373	365	433	592	574	614	565	537	503	34.3	11.0
5～10	170	222	251	223	263	355	377	357	404	338	325	22.1	19.6
10～15	94	134	208	144	174	194	217	226	205	200	203	13.8	1.0
15～20	67	73	140	122	133	164	163	169	137	132	135	9.2	1.5
20年以上	52	86	133	133	204	284	297	310	272	252	233	15.9	14.3
不詳	7	3	1	4	17	46	86	83	75	83	69	4.7	8.0

注：総数には同居期間不詳を含む。

		年次	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
出生率	人口千対	昭和45年	15.8	17.8	16.4	15.7	15.8	15.1	14.3	16.5	15.2	15.1	14.0	14.0	15.9		
		50	15.6	16.9	17.5	16.0	16.3	15.0	15.4	15.9	15.3	15.8	14.3	14.2	15.2		
		55	14.4	14.2	15.6	14.1	15.1	14.0	14.2	15.7	14.9	14.8	13.3	13.1	14.1		
		60	13.3	13.6	13.0	12.6	12.7	13.6	13.0	14.7	13.4	14.0	13.0	12.8	13.3		
		平成2年	10.9	10.3	11.0	10.6	10.7	11.6	11.3	11.5	11.1	11.2	10.9	10.0	10.8		
		7	9.9	10.1	9.4	9.4	9.4	10.4	10.1	10.3	10.7	10.5	9.1	9.1	10.1		
		12	10.0	10.3	9.9	10.7	9.9	9.9	9.6	9.6	9.9	10.7	10.5	9.4	10.1		
		16	9.1	9.1	8.7	9.2	9.3	8.3	8.6	10.0	9.6	9.5	8.2	8.9	9.3		
		17	8.7	8.9	8.8	9.1	8.5	8.4	9.3	9.1	8.0	9.2	8.3	8.2	8.6		
		18	8.9	8.9	9.0	8.8	8.8	9.0	8.7	8.6	8.9	9.2	9.1	8.9	9.0		
		19	9.0	8.5	8.5	9.1	8.7	9.1	8.2	9.5	9.6	9.9	8.7	9.5	8.8		
		20	9.2	9.3	8.5	8.3	9.0	9.5	9.0	9.9	9.8	10.1	9.1	8.6	9.0		
		死亡率	人口千対	昭和45年	8.5	13.3	10.7	9.1	8.2	7.1	6.7	7.5	7.1	6.9	8.0	8.4	9.6
				50	8.0	9.0	8.3	8.5	8.5	7.9	6.5	8.1	7.4	7.0	7.9	8.1	9.3
55	8.0			9.2	10.7	8.3	7.9	7.2	6.9	6.6	6.9	6.9	7.8	8.2	8.9		
60	7.7			8.9	8.7	8.1	7.6	6.9	6.9	6.4	6.9	6.9	7.4	8.1	10.2		
平成2年	8.3			9.8	9.1	8.9	8.2	7.7	7.2	7.4	8.0	8.1	7.8	8.6	8.7		
7	9.0			13.2	10.5	10.0	8.4	8.2	7.7	7.7	7.8	7.6	8.2	9.2	9.6		
12	9.0			11.4	11.4	9.8	9.7	8.2	7.9	7.8	7.8	7.5	8.1	9.2	9.7		
16	9.5			10.9	11.2	10.1	9.2	9.0	8.6	8.2	8.3	8.3	9.5	9.9	10.6		
17	9.9			11.3	11.3	11.6	9.6	9.3	8.5	8.6	9.1	9.1	8.9	10.4	11.2		
18	9.8			11.7	11.1	10.4	10.2	9.9	8.2	9.0	8.8	9.3	9.2	9.9	10.5		
19	10.3			11.9	11.5	10.8	10.7	9.7	8.9	9.2	8.3	9.3	10.3	11.1	11.6		
20	10.5			12.2	12.8	10.8	10.2	9.9	9.4	10.3	9.1	9.6	10.4	10.4	11.5		
乳児死亡率	出生千対			昭和45年	15.2	24.4	11.0	14.3	18.6	13.0	14.7	13.6	10.1	12.0	17.0	10.0	21.1
				50	10.6	8.6	6.6	13.7	5.3	14.7	9.8	13.1	10.6	11.0	9.8	10.2	9.9
		55	6.9	9.6	4.1	4.6	5.7	7.4	4.8	10.2	6.5	7.7	9.4	5.8	4.7		
		60	6.0	4.9	6.6	7.9	6.2	8.9	5.1	7.0	7.6	3.1	4.0	5.2	5.0		
		平成2年	4.6	5.0	1.4	3.7	1.3	3.7	5.1	4.9	3.7	1.3	7.4	10.2	7.4		
		7	3.7	8.1	3.0	8.1	0.0	6.7	7.0	1.3	2.7	0.0	2.7	2.8	1.3		
		12	2.9	4.1	1.4	1.4	7.0	5.4	1.4	1.4	1.4	4.2	1.4	1.4	4.1		
		16	3.2	3.0	4.8	1.5	1.6	6.0	3.1	1.5	6.0	1.6	1.5	6.2	1.5		
		17	1.7	1.6	1.7	1.6	1.6	0.0	3.2	1.6	3.1	0.0	1.6	1.6	3.1		
		18	2.0	0.0	5.1	1.5	3.2	3.1	3.2	3.1	0.0	1.6	3.1	0.0	0.0		
		19	2.2	1.5	1.7	1.5	1.6	3.1	0.0	4.6	3.1	1.6	1.5	3.2	3.1		
		20	2.8	3.0	3.2	0.0	0.0	4.5	0.0	6.0	9.1	4.7	0.0	1.6	1.5		
		死産率	出生千対	昭和45年	75.9	71.2	90.7	77.5	85.1	82.6	79.4	75.5	70.1	78.5	67.0	75.9	57.3
				50	57.7	52.2	58.6	60.2	64.3	62.3	38.9	67.1	67.1	61.3	56.6	54.2	48.5
55	51.0			68.3	54.1	54.9	47.1	56.3	46.3	59.4	48.7	55.8	47.4	40.2	46.1		
60	51.2			47.9	57.1	53.3	63.1	72.8	47.6	44.5	44.9	38.1	51.0	46.2	47.1		
平成2年	49.2			56.5	57.3	48.3	44.8	45.4	38.0	45.8	52.9	60.7	51.6	48.8	40.5		
7	40.5			29.8	44.4	59.5	33.4	41.4	33.4	44.0	42.7	25.4	41.4	49.5	40.1		
12	40.7			32.4	36.0	51.8	36.1	44.0	54.9	37.6	35.0	40.1	36.3	41.5	42.7		
16	37.5			41.5	26.0	34.3	43.5	33.2	34.8	33.1	26.4	43.9	45.9	41.1	46.3		
17	32.1			31.3	38.1	37.4	38.1	20.6	19.3	33.4	31.4	35.3	27.3	36.3	36.8		
18	29.0			28.3	21.4	33.1	34.2	23.9	30.2	23.3	31.3	37.1	30.5	23.4	29.7		
19	28.1			33.0	27.7	25.2	34.9	36.4	31.9	24.1	29.2	22.5	18.7	27.5	27.4		
20	24.8			21.9	33.8	32.4	26.3	28.4	21.8	20.5	22.1	26.2	20.9	22.7	22.6		
婚姻率	人口千対			昭和45年	7.3	5.6	7.4	10.1	11.6	9.9	7.2	3.9	3.2	3.4	8.7	7.9	8.6
				50	7.3	5.6	7.7	10.2	11.6	11.4	5.9	3.6	2.1	3.0	9.2	9.0	8.0
		55	6.4	4.9	6.8	8.6	9.1	10.2	5.4	2.6	1.8	3.4	7.4	8.3	8.0		
		60	5.6	3.3	5.4	8.1	8.1	9.0	4.9	3.0	1.8	4.2	7.2	7.5	6.0		
		平成2年	5.2	3.1	4.7	7.0	6.9	7.4	6.0	3.2	1.9	3.1	6.6	6.7	5.4		
		7	5.2	3.6	4.1	6.6	5.6	6.9	5.9	4.4	2.6	4.0	6.0	6.8	5.3		
		12	5.4	5.3	5.5	6.7	5.4	5.9	5.5	4.9	3.2	5.1	5.5	6.3	6.2		
		16	5.1	3.9	5.1	6.7	5.0	5.2	4.9	4.7	3.6	4.9	5.4	5.8	5.4		
		17	4.8	3.7	4.6	6.2	5.0	5.4	4.0	4.3	3.6	4.4	5.2	6.2	5.1		
		18	5.0	3.8	5.4	7.2	5.1	5.0	4.3	5.0	3.8	3.9	5.0	6.2	5.1		
		19	4.9	4.4	5.0	6.0	4.8	4.7	4.5	5.2	3.1	4.6	4.9	7.0	5.0		
		20	4.9	3.9	5.3	6.1	5.6	5.0	4.4	5.1	3.8	4.1	4.9	6.4	4.8		
		離婚率	人口千対	昭和45年	0.79	0.62	0.74	0.78	0.96	0.66	0.84	0.77	0.80	0.88	0.91	0.70	0.77
				50	0.90	0.93	1.01	0.89	1.00	0.94	0.89	0.93	0.82	0.95	0.86	0.79	0.83
55	0.99			0.81	0.98	0.93	1.31	1.07	0.82	1.04	0.90	1.14	1.23	0.88	1.13		
60	1.24			0.94	1.38	1.33	1.12	1.21	1.09	1.35	1.34	1.20	1.39	1.19	1.37		
平成2年	1.13			0.98	1.04	1.69	1.18	1.25	1.19	1.28	0.93	0.99	0.99	0.96	1.07		
7	1.39			1.49	1.46	1.55	1.38	1.48	1.27	1.48	1.23	1.28	1.37	1.38	1.27		
12	1.87			1.36	2.12	1.86	2.07	2.13	1.79	2.00	1.69	1.90	1.92	1.62	2.00		
16	1.98			2.00	2.05	2.29	2.13	2.00	1.79	1.98	2.15	1.82	1.87	1.78	1.88		
17	2.04			2.05	1.83	2.10	2.10	1.94	2.10	1.92	2.21	2.02	1.95	2.03	2.20		
18	1.93			1.73	1.99	2.88	1.80	2.10	1.91	1.85	1.84	1.71	1.60	1.77	1.97		
19	1.80			1.73	1.80	2.19	1.99	1.90	1.89	1.60	1.44	1.98	1.61	1.75	1.76		
20	1.72			1.47	1.88	2.22	2.16	1.64	1.99	1.77	1.55	1.66	1.39	1.26	1.70		